

平成 28 年度名古屋大学大学院文学研究科

学位（課程博士）申請論文

ベトナム語の名詞修飾表現

名古屋大学大学院文学研究科

人文学専攻 言語学専門

NGUYEN Hanh Thi Hong

平成 28 年 12 月

目次

序論	1
1. 研究対象	1
1.1 名詞修飾の各種	1
2. NVP の全体像	2
2.1 名詞と類別詞	3
2.2 数量詞	5
2.3 ベトナム語の NVP 意味用法	6
3. ベトナム語の先行研究の現状と問題点	7
4. 他の名詞修飾に関する先行研究	7
4.1 Keenan & Comrie	8
4.2 寺村	8
4.3 春日	8
4.4 宮島	9
4.5 益岡	10
5. 研究内容と構成	10
5.1 データ収集方法	10
5.2 内容及び構成	10

第1章 主名詞が修飾節の主語（第1グループ）	12
1. NがVPの主語の場合	12
2. 共起.....	15
2.1 テンス・アスペクト	16
2.1.1 経験を表すアスペクト	16
2.1.2 眼前描写や現時点の状態のアスペクト.....	17
2.2 非独立動詞との共起.....	18
2.2.1 モダリティ性の非独立動詞	18
2.2.2 関係を表す非独立動詞	20
2.2.3 存在の非独立動詞	20
2.3 副詞	24
2.3.1 頻度副詞	25
2.3.2 程度、状態副詞.....	26
2.4 虚詞2語の重ね合わせ	26
3. 特別な動詞	28
4. 「Nの主語への昇格」という手段	28
5. 結び	29
第2章 主名詞が修飾節の主語ではない場合（第2グループ）	30
1. 主名詞が主語ではない場合	30
1.1 Keenan & Comrie	30
1.2 単位名詞による修飾で関係詞の出現度が高いタイプ	34
2. 関係詞の出現に影響する要因.....	35

2.1 主節内の NVP の位置	35
2.2 二重修飾の場合	37
2.2.1 同じ N に修飾要素が二つ以上ある場合	37
2.2.2 修飾された第 1 の N1 が引き続き第 2 の N2 を修飾.....	38
2.2.3 NVP における多義解釈	40
2.3 VP に文修飾副詞の出現	41
2.3.1 文修飾副詞句	42
2.3.2 文修飾副詞節	44
2.4 談話参加者の N への共有情報や知識.....	45
2.4.1 VP フレーズの成分の数	46
2.4.2 限定性	47
2.4.3 焦点性	47
2.5 その他	50
2.5.1 発音上の問題.....	50
2.5.2 個人差	50
3. 短縮形.....	51
3.1 N が VP の目的語で、関係詞が出現しないタイプ（VP に虚詞が現れる）	51
3.2 単音節の組み合わせのフレーズ	54
4. N と VP を結ぶ様々な語.....	56
5. 例外	57
6. 結び	57

第3章 第3グループ	59
1. 寺村の「内の関係」と「外の関係」	59
2. ベトナム語の「外の関係」	62
2.1 春日（2016）の分類	62
2.2 相対的補充	64
2.2.1 NとVPが関係詞なしで直接繋がる場合	64
2.2.2 関係詞が随意的な場合	64
2.2.3 NとVPを繋げる語を添えなければならない場合	65
2.3 内容補充	66
2.3.1 過程随伴物	66
2.3.2 一般的な内容補充	66
2.3.3 外の関係とアスペクトとの関係	70
2.4 その他の外の関係	72
2.4.1 màの語彙的な意味	72
2.4.2 Nの同一指示の要素	74
2.4.3 NがVPの抽象的な場所	74
2.4.4 NとVPの主語が所有関係にある	77
3. 意味用法	78
4. 結び	78
4.1 màが出現する場合	79
4.2 màの出現が随意的な場合	81
4.3 màが出現しない場合	81

第4章 日本語との比較	83
1. 意味での比較	83
1.1 益岡（1995）の非限定的 NVP の階層	83
1.2 ベトナム語 NVP の VP は N の性質・属性を表さなければならない	86
1.3 NVP の VP 内容やその連結性	88
1.4 両言語の意味用法の曖昧さ	89
1.5 コマーシャル効果	90
2. 統語上の比較	90
2.1 ベトナム語にない日本語の NVP	91
2.1.1 相対的補充	91
2.1.2 短路	91
2.1.3 一時的な動作動詞	92
2.2 日本語にないベトナム語の NVP	93
2.2.1 VP に現れる様々な語	93
2.2.2 複数回現れる N と VP	93
2.2.3 疑問詞を用いた修飾	94
3. 両言語の全般の NVP の使用状況	94
3.1 データ	95
3.2 日本語との比較	95
4. 第4章のまとめ	96

結論	97
1. 研究成果	97
2. 課題と今後の展望	98
参考文献	99

序論

1. 研究対象

名詞修飾文は名詞を修飾する表現であり、日本語の場合は修飾部分はその名詞の前に置かれる。

(1) 太郎が読んだ 本

修飾節 主名詞

形態上では、修飾節内の動詞を非丁寧形にし（読みました→読んだ）、主名詞の前に置くというルールだけで文が産出される。日本語母語話者は主名詞「本」と修飾節「太郎が読んだ」との結び付きを自然に理解できるだろう。しかし、SVO 語順の孤立語で格助詞を持たないベトナム語の名詞修飾文では、修飾節が主名詞の後に来るため、ベトナム語母語話者は常に頭の中で、修飾節が主名詞とどのような関係にあるかという問いに答えようとする。ここでは、「太郎はその本を読んだ」、つまり、主名詞が修飾節の目的語であるということが分かった上で文が理解できる。ベトナム語訳をすると次のようになる。

(2) cuốn sách (mà) Taro đã đọc.

類別詞 本 (関係詞) 太郎 過去 読む

(太郎が読んだ本。)

本論文は動詞が主名詞を修飾する例(2)のようなベトナム語の文を研究対象とする。以下、修飾節を VP、VP によって修飾される主名詞を N と略称する。VP によって修飾される主名詞までの全体を NVP と呼ぶ。

1.1 名詞修飾の各種

ベトナム語名詞修飾文でも、VP の位置には日本語と同様で、形容詞、名詞、動詞が来る。この3種のうち、動詞の場合は VP の成分が多く、N と VP の関係が最も複雑である。例を見てみよう。

(3) Trà đặc (形容詞による修飾)

お茶 濃い

(濃いお茶)

(4) Sách tiếng Nhật (名詞による修飾)

本 日本語

(日本語の本)

(5) Cuốn sách mà Taro đã đọc (動詞による修飾)

類別詞 本 関係詞 太郎 過去 読む

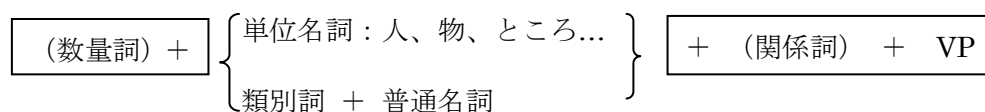
(太郎が読んだ本)

以上の例で分かるように、形容詞と名詞の場合は一般に N と直接結び付くのに対して、動詞の場合は N と VP を結ぶための関係詞の mà が伴う。VP と N を結ぶこの関係詞 mà は文によって出現したりしなかったりする。本論文では、どのような条件で関係詞を必要とするのか、動詞句によって修飾される名詞修飾文は一体どのような構造を持っているのか、またどのような意味機能を有するのかということを究明していきたい。

2. NVP の全体像

ベトナム語の NVP の基本的な形式は、以下の形式1の通りである。括弧に入っている数量詞と関係詞は必須の成分ではない。ベトナム語では N を修飾する前に、その名詞の集合や定性を定める必要がある。Hoàng Dũng, Nguyễn Thị Ly Kha (2004)もある物に属性や情報を加えることができるのは、その物と他の物とを区別する語が付いている時だけであると説明している。したがって、主名詞の N は単位名詞か「類別詞 + 普通名詞」かの2種類でなければならないのである。というのは、単位名詞は普通名詞と違って、物を区別する範囲を有するからである。類別詞にもこの機能があるので、物を区別する範囲を有しない普通名詞の前に置かれる。

形式 1



(2) Cuốn sách		(mà)	Taro	đã	đọc
類別詞 本		関係詞	太郎	過去	読む
(太郎が読んだ本。)					

形式 2-1:

固有名詞、(または -) 形式 1

- (6) “Yume wo chikara ni” - cuốn sách (mà) Taro đã đọc.
“Yume wo chikara ni” - 類別詞 本 関係詞 太郎 過去 読む
(太郎が読んだ『夢を力に』。)

形式 2-2:

形式 1、(または -) 固有名詞

- (7) cuốn sách (mà) Taro đã đọc, “Yume wo chikara ni”
類別詞 本 関係詞 太郎 過去 読む、 “Yume wo chikara ni”
(太郎が読んだ『夢を力に』。)

2.1 名詞と類別詞

ベトナム語の名詞には単位名詞と普通名詞があり、前者が可算で後者は非可算名詞である。この概念は日本語にはないようだが、非可算普通名詞を可算にするためには類別詞が必要である。日本語と同様、名詞によって類別詞が違い、その数は多い。

単位名詞自身は普通名詞にもなるし、別の普通名詞を数えるのに使われる類別詞としての機能もある。NVP において、単位名詞は可算なので、普通名詞として機能する場合は類別詞を伴わなくてもいいが、普通名詞は必ず類別詞を伴う。

普通名詞「本」は事物の概念を表示し、内容そのものが重視され、その内容によって他の概念の物と区別される。つまり「本」という内包概念は例えば「新聞」の概念と区別される意味を持っているわけである。内包概念から、中にある外延メンバーを指す時には、その名詞に類別詞を前置させなければならない。上の例では、普通名詞の sách (本) に対して、cuốn (冊) という専用の類別詞を伴う。すなわち、(8) は非文であり、(2) のようにある特定の本を指すためには類別詞を加えなければならない。

- (8) *Sách mà Taro đã đọc
本 関係詞 太郎 過去 読む

(2) **Cuốn** sách mà Taro đã đọc

類別詞 本 関係詞 太郎 過去 読む

(太郎が読んだ本。)

これに対し、単位名詞は可算名詞であるため、単独で **NVP** の主名詞になることができる

(9) **Người** tôi gặp sáng nay (普通名詞としての機能)

人 私 会う 今朝

(今朝私が会った人。)

単位名詞は類別詞の一種でもあり、他の非可算の普通名詞を修飾し、可算名詞にすることもできる。

(10) Đó là **người** thầy đã dạy tôi (類別詞としての機能)

それ 繫 人 講師 過去 教える 私

(それは私に教えた一人の先生だ。)

単位名詞及び「類別詞＋普通名詞」の両方は可算名詞なので、数量を指す数量詞とさらに共起することもできる。**một sách** (1 本), **hai sách** (2 本) のようには言えないが、例えば **một người** (一人), **hai cuốn sách** (2 冊の本) などのようには言える。また可算名詞の場合、数量が 2 以上なく、1 しかないと表現したい時は、この 1 (**một**) を付けても付けなくても、1 と解釈される。そのため、上の **người thầy** は「一人の先生」と訳したわけである。また、**cuốn sách** も **một cuốn sách** もある特定の 1 冊の本を指すことになる。

先行する普通名詞から一旦単位名詞に置き換えることによって、文が表示する事態における対象を明確にする役割を果たす形の名詞修飾も作ることができる。

形式 3 : (数量詞) 普通名詞, (数量詞) 単位名詞 (関係詞) **VP**

(11) Hai cuốn sách, chiếc bút, những thứ (mà)
 数量詞 類別詞 普通名詞、類別詞 普通名詞、数量詞 單位名詞 (關係詞)
 tôi mong muốn
 私 望む
 (二冊の本やペンは私が望む物だ。)

thứ (物) のような單位名詞は cuốn (冊) と chiếc (つ) の両概念を含んでいるので、これらを置き換えるために後ろに来られるのである。(12)より、(11) では、「望む」対象である「2冊の本」が明確に伝えられている。このため、対象を正確に強調する場合は上の置き換えの NVP を用いた方がよい。この種の NVP については、また第2章で再び詳しく触れる。

(12) Hai cuốn sách (mà) tôi mong muốn
 数量詞 類別詞 普通名詞 (關係詞) 私 望む
 (私が望む二冊の本。)

2.2 数量詞

以上で述べたように、類別詞によって名詞の概念が特定されてから、名詞の外延メンバー数を数量詞で表す。数量詞にも何種類かあるとされている。1,2,3...の一定の数値を表す具体的な数量詞から những, các, (各) một vài, mấy (いくつか) など複数を表すもの、あるいは tất cả, mọi, (全て) を表す数量詞までである。

数量詞と類別詞によって特定された名詞は単独で用いることができず、どのような名詞なのか、どの名詞について話しているのかということが分かる必要がある。つまり、某(特定したくない)や指示詞、形容詞や名詞、あるいは本研究の対象である動詞フレーズなどの修飾が必然的に要求されるのである。

類別詞、数量詞そして NVP は名詞修飾構文における欠かせない成分であり、この構文を認識する標識と言える。

2.3 ベトナム語の NVP 意味用法

ベトナム語の NVP の意味は 3 種ある。それは、排他的の限定、属性表示と情報付加である。

排他的限定的意味

(2) cuốn sách (mà) Taro đã đọc.

類別詞 本 (関係詞) 太郎 過去 読む

(太郎が読んだ本。)

本という普通名詞の集合には二つ以上の様々な外延がある中で、ある一冊、具体的な本を指す場合、その本を特定する必要がある。ここでは、「太郎が読んだ」というフレーズでどの本を指しているかが分かる。つまり、本の集合から、「私が読んだ」本などではなく、「太郎が読んだ」本に限定しているのである。VP によって、他の本と区別することができる排他的限定の意味である。

属性表示の意味

属性表示の意味には2種類あるが、一つ目は「N 自体の属性」を表す意味である。

(13) Những cuốn sách thay đổi cuộc đời bạn.

各 類別詞 本 変える 人生 あなた

(あなたの人生を変える本。)

ここでは、連用的に「これらの本はあなたの人生を変える」と言い換えられる。VP は本である N の特徴、すなわち属性を表している。属性の意味には性格、能力、経験などの他に何かの活動における貢献または支配権なども含んでいる。具体的には第1章で詳述する。

二つ目は「モダリティ属性」と呼ばれる。N が何らかの属性を持っているからこそ、話し手は初めてそれに対して、態度、評価、判断などを行うことができる。

(14) (một) cuốn sách mà tôi yêu thích.

ある 類別詞 本 関係詞 私 好む

(私が好む本。)

「私が好む」は本について話し手が評価する内容であり、本論文ではこれを「モダリティ属性」と呼ぶ。

情報付加の意味

(15) Những cuốn sách dạy cách làm giàu.

各 類別詞 本 教える 方法 する お金持ち

(お金持ちになる方法を教える本。)

(15)では本の内容が VP に表示してある。VP の役割は N そのものの内容を表すことである。属性表示と情報付加の意味は非限定な用法とも言えるが、例えば、例 (14) の「モダリティ属性」によって本が限定されるとも解釈し得る。「私が好まない」本、あるいは私ではなく「あなたが好む」本も十分連想できるから、限定的な意味とも繋がっている。限定か非限定かの判断は主節の文脈に拠らなければならない。

3. ベトナム語の先行研究の現状と問題点

ベトナム語の文法全般の研究はこれまでかなりされてきたが、名詞修飾というような文法項目の詳細な内容に絞った研究はまだそれほど多くないようである。

名詞修飾についても、全般的な研究の中で散発的には言及されているが、体系的にまとめたものはまだない。以下に二つの先行研究を挙げる。

Nguyễn Kim Thân (1997) では、NVP を VP の動作主が N の場合、VP の動作主が N ではない場合、VP が N に説明を加える場合、という3種に分けている。このうち、VP の動作主が N ではない場合は関係詞を伴いやすいと述べているだけで、その理由や具体的な分類に全く触れていない。また、実際には、VP 内の動作主が N でない場合でも、関係詞なしで文が成立するケースもあることも確認する。本研究でも VP の動作主が N ではない場合は関係詞を伴いやすいという説を支持するが、その分類や理由についても説明を加える。

4. 他の名詞修飾に関する先行研究

前節で述べたように、ベトナム語の NVP は今まであまり研究されてこなかったが、日本語

における NVP の研究は盛んである。そこで、ベトナム語の NVP 分析や両言語の比較に役立つ理論を援用し、ここでは先ずその各理論の概要を簡単に紹介し、各章の関連のある個所で再び詳述する。

4.1 Keenan & Comrie

Keenan & Comrie (1977)は類型論的な分析から、accessibility hierarchy の仮説を提示し、名詞修飾化の際の主名詞となる名詞の文法役割について、次のような階層があるとしている。

主語＞直接目的語＞間接目的語＞斜格名詞＞所有者＞比較対象

ベトナム語の名詞修飾化もこの階層に基づいており、名詞修飾化が最も容易なのは、主名詞の役割が VP との関係において、主語、直接目的語の場合で、これについて間接目的語、斜格名詞、所有者の順序で修飾化されやすく、最も関係節化が難しいのが比較の対象である。

4.2 寺村

日本語の連体修飾表現の研究として最もよく知られているのは寺村（1975~1978）の「内と外」の関係の研究である。N が VP の述語とどのような関係にあるかによって、名詞修飾表現を「内の関係」及び「外の関係」に分けている。「内の関係」は、元々は一つの文を構成していた要素が、修飾・被修飾という関係に転じたものであるのに対し、「外の関係」は N にどのような格助詞をつけても VP に納めることができないものである。この場合の VP と N は、一つの文の構成要素が修飾関係に転じたということができない。

4.3 春日

日本人が行うベトナム語の研究は他の言語と比べ、数が少なく、特に構文についての研究が僅かな中、春日淳（2008・2009・2010・2014・2016）は、ベトナム語の名詞修飾について様々な問題点を指摘している。この研究の概観としては、著者は N が VP に対し、どの文法的役割（主語、目的語、補語、前置詞句）を持つかによる分類をし、NVP 化の可能性を試み

た。春日（2008）は関係詞について次のように述べている。

関係詞 mà が現れないのは[N] [[主語] [動詞]]の構造よりも、[N] [[動詞] [補語]]の構造の方であり、それは関係詞の mà がなくても、N と VP の関係が認識しやすいためだと考えられる。mà の生起条件には不明な点が多く残され、どのような場合に現れ、どのような場合に現れないかということに関する研究もなかった。

4.4 宮島

周知のように、名詞修飾文には限定と非限定の意味があることが知られている。宮島・仁田（1995）は意味的な関係考えた VP に対する N の文法役割よりも、N に対する VP の意味機能を重視して、名詞修飾文には「限定的用法」と「非限定的用法」の二つの機能があると述べている。

(16) どの映画を見ようかと家族で相談した結果、今回は息子が好きな映画を見ることにした。

(17) 日曜日に何をしようかと家族で相談した結果、今回は息子が好きな映画を見ることにした。

例（16）は「限定的用法」だと考えられる。N の外延を限定し、その下位類化を行う。つまり、映画が一つではなく、二つ以上あり、その中で「息子が好きな」映画が選択されているのである。それに対して、例（17）は「非限定的用法」だと考えられる。N に対する限定を行わず、VP の情報によって、N に説明を加える。

話し手と聞き手が VP と N のどちらに焦点を置いているかによって、制限的用法と非制限的用法が決まる。（16）では、VP の「息子が好きな」という情報に焦点が置かれており、それを省くと情報価値がなくなる。

(16') *どの映画を見ようかと家族で相談した結果、今回は映画を見ることにした。

これに対して、（17）は省略可能である。つまり、焦点が「映画」に置かれているのである。

(17) 日曜日に何をしようかと家族で相談した結果、今回は映画を見ることにした。

「息子が好きな」という VP があっても、なくてもいいわけである。このように、「限定的」か「非限定的」かの用法判断は NVP だけではできず、前後の文脈に拠るところも大きい。

4.5 益岡

名詞修飾表現の非限定的な意味について、具体的にどのような機能を果たしているのかはこれまで名詞修飾の研究ほどされてきていない。益岡（1995）は、非限定的名詞 NVP を階層的にいくつかのタイプに分類している。この分類は全く先行研究がないベトナム語の NVP の意味機能とそれについての日本語との比較に非常に役立つ。

5. 研究内容と構成

5.1 データ収集方法

本田宗一郎（1985）『夢を力に』（ベトナム語訳 “*Biển giấc mơ thành sức mạnh đi tới*”）は日本人配偶者が英語版からではなく、直接日本語版から翻訳した作品である。元々の意味が若干変わるが、英語から翻訳された今日の多くの作品よりは原文に近い翻訳作品のため、用例収集の対象に選んだ。さらに、文体が叙述文であり、NVP の意味を客観的に判断できる。収集方法としては、手作業で日本語版とベトナム語版から別々に用例を拾い、リストアップした。

上のデータ源に加え、インターネット上で集めた事例の記述も行う。関係詞のある文はキーワード mà を入れて、インターネット上の雑誌、新聞、Facebook.com、ベトナム小説ページ Vnthuquan.com.vn から “Chuyện của Lài”, “Phố” などの小説で検索した。関係詞ではないと判断される例文を除き、残った文を各種に分類した。関係詞のない文に関しては、特に検索方法がなく、直接読んで集めた。

5.2 内容及び構成

以上の各先行研究では、N と VP の文法関係や VP 内の動作手・主語の有無という基準が重

視されている。この基準はベトナム語の名詞修飾の分析に極めて明瞭かつ有用な基準であると考えている。さらに、この基準はある程度、関係詞の出現の要因とも関わっている。実例を観察すると、関係詞の出現は N と VP という二つの要素の関係以外に、NVP の範囲を超える、NVP が含まれる主節の中の NVP の位置、語用論的な要素なども影響していると思われる。これらの点も視野に入れながら分析を行う。

まず、本研究はベトナム語の NVP の統語的なあり方やその特徴、文の中でよく共起する要素などについて論じる。N が VP の主語である第 1 グループ、N が VP に対して目的語やその他の文法役割の第 2 グループ、その他の第 3 グループの 3 種に大別し、それぞれ第 1 章、第 2 章及び第 3 章で詳述する。各章では、VP 内の動作主・主語の有無、共起現象、関係詞の有無とその要因、そして意味機能（限定か非限定）という基準の下で詳細に考察していく。

本研究は 4 章で構成され、第 1 章、第 2 章及び第 3 章で、統語的な分類をした後、第 4 章では、意味的な面から NVP を考察する。連体修飾の機能は大変興味深い、ベトナム語の関連文献が全くない。日本語の理論の援用や日本語と比較することによって、ベトナム語の NVP の意味を明らかにしていく。さらに、この 4 章では、NVP の原文と対訳を比較、両言語の NVP の使用頻度や傾向、統語・意味上の両面での異同も見出す。

第1章 主名詞が修飾節の主語（第1グループ）

N が VP の主語の場合は翻訳例文合計 270 例の中、147 例も占め、他のグループに比べ最も多い。序論で紹介した Keenan&Comrie (1977) が指摘した通り、N が VP の主語の場合は他の文法役割より名詞修飾の成立度が高い。以下の (18) ～ (21) は確かに N と VP の関係が語順そのまま読み取りやすく、関係詞がなくても、文が問題なく成り立っている。

(18) Đây là ông bạn đã giúp đỡ tôi rất nhiều.

これ 繫詞 友人 既然 助ける 私 多い

(こちらは私をいろいろと手助けしてくれた友人です。)

(19) Nam đánh con chó hay sủa khi có người lạ.

人名 殴る 類別詞 犬 よく 吠える 時 いる 人 見知らぬ

(ナムは見知らぬ人がいるとよく吠える犬を殴った。)

(20) Đây là công viên có lịch sử lâu đời.

これ 繫詞 公園 ある 歴史 長い

(これは長い歴史のある公園だ。)

(21) Một bức thư của kẻ bị tử hình.

ある 手紙 の やつ される 死刑

(死刑にされるやつのある手紙。)

春日はこれらの例に関係詞が出現せず成立しやすい理由について詳しく説明していないが、筆者はこれは以下の連体と連用形式の混合現象に大きく起因すると考えている。

1. N が VP の主語の場合

ベトナム語には、次のように連用と連体の判断が困難な現象があると指摘されている。

(22) Cái áo rách vai rồi.

類別詞 服 破ける 肩 過去

(この服は肩が破けた。)

(23) Cái áo rách vai là của tôi.

類別詞 服 破ける 肩 繫詞 の 私

(肩が破けた服は私のです。)

(24) Quả chuối chín nẫu rồi.

類別詞 バナナ 成熟する 過去

(バナナが柔らかく成熟した。)

(25) Quả chuối chín nẫu đâu rồi?

類別詞 バナナ 成熟する どこ

(柔らかく成熟したバナナはどこ?)

連用と連体で、それほど構造的に差異がなく、文脈と共に考慮しないと、連用か連体かは一概に判断できない。実際の連用形式では文の主題である名詞を特定する必要があるので、名詞の後に *này, đó, kia* (この、その、あの) などの指示語がよく来る。連用形式は特定の N について述定する用法である。しかし、連体形式は *những, các* (各), *một* (一) などの数量詞とよく共起し、対象の主名詞を修飾する装定的な用法である。同じ対象の N の属性や事象を表すのに、述定方式か装定方式か、すなわち連用形式か連体形式かが選ばれる。

(26) Quả chuối **này** chín nẫu

類別詞 バナナ この 成熟する 柔らかい

(このバナナが柔らかく成熟した。)

(27) **Những** quả chuối chín nẫu đâu rồi

類別詞 バナナ 成熟する 柔らかい どこ

(柔らかく成熟した各バナナはどこ)

もう一例を見てみると

(28) Nhân vật **này** có cá tính hấp dẫn

人物 この ある 個性 魅力

(この人物は魅力的な個性がある。)

(29) **Một** nhân vật có cá tính hấp dẫn.

一 人物 ある 個性 魅力

(魅力的な個性がある一人の人物である。)

連用方式が N の特定を必要とするのに対して、連体方式では N の集合から VP の特徴を持っている N だけが言及されるので、N の集合を表す数量詞がよく来るという違いがある。

この現象があるからこそ、連体形式において、N が VP の主語である場合、連用形式と同じく、そのままの語順で文が展開されていく。連用文は成立制限が少ないことから、連体文も連用文と同じように、N と VP との関係が明らかで、関係詞が必要でなくなると説明することができるだろう。

前章で述べたように、数量詞を含めた名詞は単独で用いることができず、例えば **một nhân vật** (一人の人物) はそれだけでは十分な意味を持たず、名詞を修飾する語句が必要である。従って、NVP 文とよく共起するわけである。

(30) * **một** nhân vật

一 人物

(31) **một** nhân vật có cá tính hấp dẫn

一 人物 ある 個性 魅力

(魅力的な個性がある一人の人物。)

数量詞には具体的な数量詞と相対的な数量詞があるが、翻訳データの 157 例文中、分布は以下の通りである。

数量詞の出現頻度				指示語の出現頻度		
những (各)	các (各)	một (一)	mọi (全 て)	này (こ の)	đó (そ の)	kia (あ の)
60	51	51	3	0	0	0

những, các (各) một (一) が主な数量詞のようだが、これらの数量詞によって NVP 構文が認識されやすくなる。

以上のように、N が VP の主語である場合、N を特定するための指示語を除いて、連体修飾と連用修飾において、その形式がさほど変わらないので、関係詞も必要とせず、文が自然に容認される。

những, các あるいは những, các + 指示語は連用文にも連体文にも用いられるが、một は必ず連体文にしか現れない。前節でも述べたように、数量を 1 と表現したい時、một を付けても付けなくても 1 と理解するが、một を付ける方が連体文としての機能がより明らかになり、VP で表される内容が N の性質・属性であることを強める。

- (32) Những nhân vật có cá tính hấp dẫn (này) sẽ đem lại nhiều câu chuyện thú vị
各 人物 ある 個性 魅力 この 未来 もたらす 多く 話 面白い
(個性のあるこの魅力の人物は多くの面白い話をもたらす。)

- (33) Anh ấy là (một) nhân vật có cá tính hấp dẫn.
彼 繋詞 一 人物 ある 個性 魅力
(彼は魅力の個性がある一人の人物だ。)

2. 共起

虚詞の概念

テンス・アスペクトや副詞などの機能語はベトナム語では「虚詞」と呼ばれる範疇に属する。虚詞は実体的意味を持たず単に文法的関係のみを示す語であり、名詞や動詞、形容詞などの実詞と区別するための呼び方である。虚詞の数は40語以上あると言われている。虚詞との共起現象は特に N が VP の主語であるこのグループにはよくあるが、他のグループにおいてもこの現象が現れる。この節で触れる虚詞のほとんどは動詞の前後に来て、動詞を直接修飾するが、この場合は動詞が形容詞的用法のように機能が変わってしまう。そして、既に述べたように、ベトナム語は形容詞が名詞を修飾する場合、関係詞が要らず、そのまま名詞の後に来る。1節で分析した理由に加え、この節では虚詞も共起するため、関係詞の出現の必要度がなくなり、NVP 全体は属性を表す意味を生じさせる。この第1グループの VP は特にテン

ス・アスペクト、非独立動詞や副詞、có（ある）、là（コピュラ）などによく共起することが分かる。具体的に各種別ごとに見てみよう。

2.1 テンス・アスペクト

(34) Đây là ông bạn đã giúp đỡ tôi rất nhiều.

これ 繋詞 友人 既然 助ける 私 多い

(こちらは私をいろいろと手助けしてくれた友人です。)

(35) Nam ngắm cây đào mới bắt đầu nở hoa.

人名 眺める 木 桃 近過去 始める 咲く 花

(ナムは花を咲かせたばかりの桃の木を眺めた。)

(36) Công an đã bắt được kẻ vừa móc ví tiền.

警察官 既然 捕まえる 得る やつ 近過去 掏る 財布

(警察官は今財布を掏り取った犯人を捕まえた。)

VP に đã (既然), mới, vừa (近過去) などの標識が現れる。この標識はテンスかアスペクトを表示する機能語である。テンスの場合は話し手は VP 内の動詞の時間関係が過去か現在発話時か、あるいは未来か、動作がどの段階にあるかを判断する。前後文脈を考慮しない限り、このテンスからは主名詞の「友人」「桃の木」「やつ」を限定する機能が最初に浮かぶと言うべきである。アスペクトの場合は過去のある動作の結果によって、ある状態が継続・残存していることを表す。この状態は主名詞にある属性を付与するようにも見える。そのため、VP は形容詞と同じように物事の性質や状態を表す。

限定や属性の意味を導くこれらの標識の存在は、N と VP の結び付きを際立たせる。関係詞 mà が現れないことと関係しているのである。

2.1.1 経験を表すアスペクト

đã には以上の過去のテンス機能以外に、「したことがある」という結果残存としての経験のアスペクト機能でもよく使われている。特に「した経験」の意味を強く表す từng, đã từng

とよく一緒に使う。(37) では、「アメリカ留学に行ったことがある」ということが評価できるような経験で、ホアさんの価値（属性の一種と言える）を強調しているように聞こえる。

- (37) Em Hoa, người **đã (từng, đã từng)** đi du học ở Mĩ về, là
ホアさん 人 過去 行く 留学 前置詞 アメリカ 帰る 繋詞
em gái của tôi.
妹 の 私
(アメリカ留学に行ってきたホアさんは私の妹である。)

また、mới, vừa も「したばかり」のような、新鮮な経験を示す意味でよく用いられる。

- (38) Em Hoa, người **mới(vừa, vừa mới)** đi du học ở Mĩ về, là
ホアさん 人 ばかり 行く 留学に に アメリカ 帰る 繋詞
em gái của tôi.
妹 の 私
(アメリカに留学に行ってきたばかりのホアさんは私の妹である。)

2例とも一目瞭然、主名詞の属性・性質を表す機能を果たしている。

2.1.2 眼前描写や現時点の状態のアスペクト

đang（進行）は眼前描写や現時点の状態を表すアスペクト形式である。VP の動詞の前に現れ、(39) では、「人」を限定するが、(40) では現時点の状態の情報を「ホアさん」に加える。

- (39) Người **đang** nói chuyện với giám đốc, là em gái của tôi (眼前描写)
人 進行 話す と 社長 繋詞 妹 の 私
(社長と話している人は私の妹である。)

- (40) Em Hoa, người **đang** làm việc ở công ty Canon, là em gái của tôi
ホアさん 人 進行 働く で 会社 キヤノン 繋詞 妹 の 私

(キャノン会社で働いているホアさんは私の妹である。) (現時点の状態)

このように、テンス・アスペクトを表示する機能語は VP 内の動詞に補助的な意味を加えることによって、VP と N の関係がより明らかになる。先の *đã, mới, vừa, đang* が入っている NVP は N の限定または N の属性のどちらにも理解可能である。

2.2 非独立動詞との共起

Diệp Quang Ban (1991) によると、ベトナム語の動詞は2種類に区別されている。それは独立動詞と非独立動詞である。独立動詞は「食べる」「寝る」のように、独立で意味を持っている動詞である。それに対して、非独立動詞は単独では意味的に不完全で、意味を補うため、後ろに他の独立動詞が来る必要がある。モダリティ性の非独立動詞、存在の非独立動詞と関係を表す非独立動詞という3種に分けられている。

2.2.1 モダリティ性の非独立動詞

モダリティ性の非独立動詞とは事象に対する主観的な態度、評価や意思などを表す動詞である。モダリティ性の非独立動詞には以下の5種がある。

必要度を表す：*cần* (要る), *nên* (したほうがいい), *phải* (しなければならない) ...

可能性を表す：*không thể, chưa thể* (不可能)、*được, có thể* (可能性), ...

迷惑受身：*bị, mắc* (迷惑受け身), *được* (受益受身), ...

期待を表す：*muốn* (Vたい), *trông, mong* (期待する), *ước, cầu* (願う)

意思・願望を表す：*dám* (敢えて...する), *định* (予定する)

- (41) Những doanh nghiệp **phải** đi vay vốn thường làm ăn không tốt.
各 企業 しなければならない 借金 一般に 運営 よくない
(借金をしなければならない企業は一般に運営がよくない。)

可能性を表す：*không thể* (不可能), *chưa thể* 可能性：*được, có thể* (可能) など

(42) Họ đã phát minh ra robot có thể đi được bằng 2 chân)

彼ら 過去 発明 出した ロボット 可能 歩く 可能 で 2本 足

(彼らは足2本で歩けるロボットを発明した。)

(43) Hội những người không thể sống thiếu One piece

会 格 人 不可能 生きる なく ワンピース

(ワンピースがなくては生きられない人達の会。)

受け身・使役を表す： bị (迷惑受身), được (受益受身), cho, làm cho, khiến, bắt (させる) など

(44) Đây là bức thư của kẻ bị tử hình.

これ 繋詞 手紙 の やつ 受け身 死刑

(これは死刑にされるやつの手紙である。)

(45) Từ nay Hưng chẳng còn phải là đứa được chiều chuộng ở trong nhà nữa.

これから フンさん ではない 繋詞 子 受け身 甘やかす で 中 家 もう

(これからフンさんはもう家の中で甘やかされる子ではない。)

期待を表す： muốn (V たい), trông, mong (期待する), ước, cầu (願う)

(46) Những sinh viên muốn đi Nhật phải mất phí 10.000 đô la.

各 学生 たい 行く 日本 しなければならない 費用 1万 ドル

(日本に行きたい学生達は1万ドルの費用を払わなければならない。)

意思・願望を表す： dám (敢えて...する), định (予定する)

(47) Người đàn ông đã dám đánh cược cả đời mình với niềm say mê

人 男 過去 あえて 賭ける 一生 自分 と 趣味

(趣味にあえて自分の一生を賭けた男。)

(48) Đó là một đứa trẻ **đám** biểu lộ suy nghĩ của mình. (再掲)

それ 繋詞 一 子供 敢えて 表す 考え の 自分

(それは敢えて自分の考えを表す一人の子供である。)

Nが何らかの属性を持っているからこそ、話し手は初めてそれに対して、態度、評価、意思などのモダリティ性を表すことができる。そのため、このモダリティ性の非独立動詞が入った NVP は N の属性を示すことになる。

2.2.2 関係を表す非独立動詞

関係を表す動詞には主に職業を表す là (コピュラの繋詞), làm (やる、やっている) がある。

(49) Tôi viết thư cho em gái là luật sư.

私 書く 手紙 前置詞 妹 繋詞 弁護士

(私は弁護士である妹に手紙を書く。)

2.2.3 存在の非独立動詞

存在の非独立動詞は có (ある、いる) をはじめ, còn (まだある), hết (もうない), cứ, vẫn (まだ V), chỉ (だけ), chưa (まだ V ていない) などがある。

(50) Anh ấy là người **chưa** có kinh nghiệm bán hàng.

彼 繋詞 人 まだ ある 経験 販売

(彼はまだ販売経験がない人です)

(51) Nhật bản là một xã hội **vẫn** trọng nam khinh nữ.

日本 繋詞 一 社会 まだ 男尊女卑

(日本はまだ男尊女卑の社会である。)

có (ある、いる) 動詞については、様々な形で NVP と共起するし、共起語の中で出現頻度が

一番多い（59 例）。có 動詞だけの研究でも大変興味深い。

2.2.3.1 có の意味用法

1. 全般的な意味としては存在を表す。Có cơ hội 「チャンスがある。」
2. 人と事象あるいはその人の所有権、支配権との関係にある存在状態：công dân có quyền bầu cử 「国民は選挙権がある。」
3. 全体と部分の関係の中での存在状態：sách có 3 chương 「本は 3 章からなる。」
4. 人あるいは事象が属性と活動などの関係にある存在状態：có công với đất nước, 「国に貢献がある。」（国に貢献した）
5. 源、親近、交互作用の関係の中での存在状態：có người yêu 「恋人がいる。」, có truyền thống lâu đời 「長い伝統がある。」
6. また có に近い意味の mang 「持っている」、gắn 「付ける」の頻度もかなり高い。

これまで分類した通りに様々な虚詞との共起が見られたが、注目すべきことは特別な動詞、特に có（ある、いる）という動詞との共起がその半分近く（55 例）を占めているということである。có はただ「ある」、「いる」という独立の動詞としての意味だけではなく、他の動詞の前に来て、虚詞の文法機能としても使われる。以下に各用法を列挙する。

名詞修飾文では、「có+名詞」、「có+名詞+形容詞」、「có+名詞+動詞」の三つの用法がよく用いられる。三つの用法で使われる名詞は、所有関係にある無生物から、性格、能力、実績、経験、権利、考えなど、事象あるいはその人の所有権、支配権、属性や活動と関係があるような抽象的なものまで包含している。

2.2.3.2 có の様々な用法

「có+N」

N は所有物、貢献、性能、性格、可能など

(52) Nhân viên có bằng tốt nghiệp đại học.

社員 ある 証明書 卒業 大学

(大学卒業証明書がある社員。)

(53) Ông ấy là người có công với đất nước.

彼 繋詞 人 ある 貢献 前置詞 国

(彼は国へ貢献した人だ。)

また có に近い意味の mang (持っている)、gắn (付ける) の例は以下のようなものである。

(54) Xe gắn máy mang nhãn hiệu dream.

バイク 持っている ブランド ドリーム

(ドリームブランドを持っているバイク。)

(55) Xe đạp gắn động cơ nhỏ có tên gọi là "Batabata".

自転車 付ける エンジン 小さい ある 名前 という バタバタ

(バタバタという名前で、小さいエンジンを付ける自転車。)

「có+動名詞」

ベトナム語の動名詞は名詞ではあるが、動詞としても機能できる品詞転換可能な名詞である。動詞としての場合は動作に焦点が当てられるが、「có+名詞」形式では、話し手が評価を表す意味合いになる。この形には、評価することによって他と区別し、N を特定するという機能がある。

それぞれの翻訳のベトナム語と日本語の原典を比較していただきたい。

ベトナム語訳

— 日本語原典

(56) 「大学卒業証明書がある人」

— (56') 「大学を出た人」

(57) 「魅力的な個性のある本田さん」

— (57') 「**魅力な個性**の本田さん」

(58) 「新製品を生産する能力のある社員陣」

— (58') 「新製品を**見つけ出す**社員陣」

見てわかるように、日本語の原典では、事態をただ単に形容詞や動詞で叙述している。しかし、ベトナム語訳は、có を用いて、その事態・事象を一ランク上に持ち上げて、その叙述した事態・事象の結果状態で表現する傾向がある。そうすることによって、話し手が N を何

かの価値があると評価したいという意味合いに繋がることになる。

ベトナム語にも品詞転換現象があり、同じ事象・事態を述語の形容詞、名詞、動詞のどちらでも表現できる。とはいえ、「có+名詞」、特に動名詞（以上の例：貢献する）の場合は「貢献する」よりも、「貢献がある」の方が好まれる。人名詞の性質・属性を表現する働きをするので、人名詞の名詞修飾文と相性がいいのである。có が数多く人名詞の修飾文と共起するのもベトナム語の一つの特色であると言える。

「所有を表す có」

(59) Đây là công viên có lịch sử lâu đời.

これ 繋詞 公園 ある 歴史 長い

（これは長い歴史のある公園だ。）

(60) Đứa con có bố mẹ đã li hôn.

類別詞 子供 ある 両親 過去 離婚

（両親が離婚した子供。）

「có+名詞+形容詞」

(61) Ông Honda, một nhân vật có cá tính đầy hấp dẫn.

さん 本田 一 人物 ある 個性 魅力

（魅力的な個性がある本田さん。）

(62) Nhà khoa học kĩ thuật có cống hiến giá trị cho đề tài này.

家 科学 技術 ある 貢献 価値 に 題材 この

（この題材に価値的貢献がある科学者。）

「có+名詞+動詞」

(63) Đội ngũ hùng mạnh có khả năng nghiên cứu sản xuất những sản phẩm mới.

社員隊 強力 ある 能力 研究 生産 各 商品 新しい

(各新製品を研究して生産する能力のある強力な社員隊。)

(原典：技術者の層が厚くなって、企業を守る商品を見つけ出してもらえる。)

(64) Một con người có khả năng tạo cho mọi người xung quanh ý nghĩ:

一 人 ある 能力 させる 皆 周り 考え

"nếu là bạn thì tôi mới chỉ dẫn".

もし 繫詞 あなた 私 教える

(“あなたなら教えてやる”という考えを皆にさせる能力のある人。)

「có+V」

Vの状態が「Vである」「Vた」という結果としての意味機能を持つ。

(65) Động cơ N600 có cải tiến.

エンジン N600 ある 改良

(改良してあるエンジン N600。)

「có+主語+V」

(66) Ngôi nhà, nơi có người đợi chờ tôi trở về, là nơi ấm áp nhất.

類別詞 家 ところ ある 人 待つ 私 帰り 繫詞 ところ ぬくもり 一番

(私の帰りを待っている人がいる家は一番ぬくもりがあるところなんだ。)

(67) Những bài báo có đề cập đến vấn đề tham nhũng.

各 記事 ある 言及 前置詞 問題 汚職

(汚職の問題に言及している記事。)

2.3 副詞

副詞は物事の過程及び現在の特徴の意味を表すだけでなく、その過程や現在の特徴への話し手の認知や描写方法も表す。様々な副詞があるが、時間副詞、頻度副詞、結果の副詞などが挙げられる。動詞の前後に出現し、動詞を形容詞化する機能がある。

春日（2008）は次のような例を挙げている。なぜ *mà* が現れないかは説明されていない。

- (68) Nam đánh con chó **hay** sủa khi có người lạ
人名 殴る 類別詞 犬 よく 吠える 時 いる 人 見知らぬ
(ナムは見知らぬ人がいるとよく吠える犬を殴った。)

- (69) Mẹ mắng đứa con **không** nghe lời bố mẹ
母 叱る 子供 否定 聞く 言葉 両親
(母は両親の言葉を聞かない子供を叱った。)

- (70) Nam nuôi một con chó ăn **rất nhiều** cơm
人名 飼う 1 類別詞 犬 食べる たくさん ご飯
(ナムはご飯をたくさん食べる犬を飼っている。)

これらの例の成立は副詞が関与しているからと説明できる。副詞は形容詞を修飾し、物事の特徴や属性を表すのが一般的であるが、動詞の前後に来ると、動詞句が動作よりも性質・属性を強く表し、形容詞句とそれほど差異がなくなる。つまり、VP は N の何らかの性質・属性を表す。様々な副詞があるが、頻度副詞と程度副詞がその属性を一番反映している。

副詞は動詞の前後に来て、動詞を修飾する。*chuyên*, *hay*（いつも、よく）などは動詞の前に来るものであり、*rất*（とても）＋形容詞などは動詞の後に来るものである。

2.3.1 頻度副詞

hay, *luôn*（よく、いつも）, *thường*（常に）, *luôn, lúc nào cũng*（いつも）, *không*（否定辞「ない」）のような頻度を表す副詞は主に動詞の前に来る。この時、動詞を形容詞らしい意味に変化させるから、物事の性質を説明する文になり、*mà* の出現が不要になると考えられる。以下の例（69）は「親の言うことを聞く」という聞く動詞が否定形にされ、「親の言うことを聞かない」が子供の属性を表すことになる。

(69) Mẹ mắng đứa con **không** nghe lời bố mẹ.

母 叱る 子供 否定 聞く 言葉 両親

(母は両親の言葉を聞かない子供を叱った。)

もう一例を見てみると、「よく笑う」も人の性格となる。

(71) 17 điều chỉ xảy ra với người **hay** cười.

17 こと しかない 起こる に 人 よく 笑う

(よく笑う人にしか起こらない17のこと。)

2.3.2 程度、状態副詞

このグループの副詞は ít (あまり)、chuyên (専ら) のように、主に動詞の前に来るものの他、動詞の後に来るものもある。例えば、動詞の後に来る「rất (とても) + 形容詞」は典型的な状態副詞であり、動作の様子を詳しく表す。

(72) Tôi là người ít học. (程度副詞)

私 繋詞 人 あまり 勉強

(私はあまり勉強しない人である。意識：学歴が低い人)

(73) Trên đảo có một người **chuyên** nói dối. (程度副詞)

に 島 いる 一 人 偏に 嘘をつく

(島には偏に嘘をつきまくる人がいる。)

(74) Em Hoa là cô gái nấu ăn **rất** giỏi. (状態副詞)

ホアさん 繋詞 女子 料理する とても 上手

(ホアさんはとても上手に料理する女子である。)

2.4 虚詞2語の重ね合わせ

có を除いた存在の非独立動詞の cứ, vẫn (まだ V) , chỉ (だけ) , chưa (まだ V ていない) , còn (まだある) , hết (もうない) のほとんどはグループ内だけではなく、他のグループとも共起

することができる。

đã+luôn

興味深いことに、虚詞が複数個同時に組み合わせられる場合もあり、日常会話などでよく見られる。頻度副詞はテンス・アスペクトと形式組み合わせて使用すると、文意が更にはっきり浮かんでくる。

(75) Cô mới là người **đã luôn** nhìn theo anh.

彼女こそ 繫詞 人 既然 いつも 見る へ 彼

(彼女こそが彼をいつも見ていた人だ。)

これらの虚辞は話し手の見方によるモダリティ性を持ち、Nの属性を表すことになるから、VPのVと共起する傾向が強い。

có+ là

có は日本語と同じように、「恋人がいる」、「父親がいる」のような関係を表すこともできる。có と là が同時に用いられる以下のような例もたくさんある。

(76) Người **có** cha **là** cựu ngoại trưởng Nhật bản, Ông Abe.

人 ある 父 繫詞 元 外務大臣 日本 さん 阿部

(元外務大臣である父親がいる阿部さん。)

(77) Em Hoa **có** người yêu **là** giám đốc rất xinh.

ホアさん ある 恋人 繫詞 社長 とても きれい

(社長をやっている恋人がいるホアさんはとてもきれい。)

一般的には虚詞は1,2語だが、3,4語まで同時に動詞を修飾することが可能であり、動詞がより形容詞的になる。

(78) Những vấn đề **vẫn còn** **chưa được** giải quyết.

各 問題 まだ ない される 解決

((依然として) まだ解決されていない問題。)

3. 特別な動詞

以上、様々な機能語と共起する VP 内の動詞の多くは動的動詞であることが分かる。動詞は、その他に静的で状態を表す動詞や形容詞的動詞など多種多様である。今回のデータでも、静的で状態を表す動詞や形容詞的動詞がそのまま主名詞を修飾する例文もかなり見られた。リストにしてみると、以下のような動詞類である。

thích hợp (適する), thể hiện (表す), tiềm ẩn (潜む), lật ngược (逆転する), đứng đầu (リードする), liên quan (関連する), thuộc (付属する), phù hợp (合う), trực thuộc (属する) 等等,

- (79) Anh ấy đã đưa ra được một phương sách rất phù hợp với hoàn cảnh lúc đó
彼 過去 出す 可能 一 方策 とても 適した と 状況 その
(彼はその時の状況に適した方策を考え出せた。)

4. 「Nの主語への昇格」という手段

N と VP の結びつきが明白でない場合、よりふさわしい VP 化の一つの手段として、N の「主語への昇格」という手段がとられると春日 (2010) が主張している。これも主語が最も VP 化しやすいことと関係すると考えられる。下の例では、N を主語へと昇格させ、それに伴って、VP 内の動詞句を受け身になっている。

- (80) Bác sỹ Dân cho bệnh nhân thuốc.
医者 人名 与える 患者 薬
(ザン医師は患者に薬を与えた。)

- (81) Bệnh nhân (mà) được Bác sỹ Dân cho thuốc đã khỏi rồi.
患者 関係詞 受け身 医師 人名 与える 薬 既然 治る 完了
(ザン医師に薬を与えられた患者は既に治った。)

または、N が所有者の場合、N を主語へと昇格させ、動詞句を使役の表現に変える。

- (82) Nam dùng bút của Hào.
人名 使う ペン ~の 人名

(ナムはハオのペンを使う。)

(83) Hào mà cho Nam dùng bút là bạn của Nam.

人名 関係詞 ～させる 人名 使う ペン 繋詞 友人 ～の 人名

(ナムにペンを**使わせた**ハオはナムの友人だ。)

5. 結び

この第1章では N が VP の主語である場合の特徴について論じたきた。すべてではないが、N は固有名詞や人名詞が多い。モダリティ性や頻度・程度の副詞などの虚詞はやはり人間と関わるものなので、描写される事象も人間の活動に集中しているからではないかと思われる。

第1章をまとめると、第1グループの NVP の特徴は以下になる。

- N が VP 内の主語であるため、連体形式が連用形式とさほど変わらないので、関係詞がなくても文が成立しやすい。
- VP と N を結ぶ関係詞が出現しない
- VP 内の動詞はテンス・アスペクトや非独立動詞、頻度・程度副詞などによく共起する。
- VP は N の何らかの属性を表す。

第2章 主名詞が修飾節の主語ではない場合（第2グループ）

この第2グループは、関係詞が出現しない、関係詞が随意的、関係詞が出現する可能性が高いという3種を含んでいる。各種において、関係詞の必要度を3段階に分け、以下の記号で示す。

mà+ : 現れた方がいいと判断されるもの

mà- : 現れた方がいいが、mà+ ほど必要ではないと判断されるもの

(mà) : 現れても現れなくてもいいと判断されるもの

1. 主名詞が主語ではない場合

1.1 Keenan & Comrie

Keenan & Comrie (1977)には類型論的な分析から、Accessibility Hierarchy の仮説が提示され、関係節化の際のNとなる名詞の役割について、次のような階層があるとしている。

主語 > 直接目的語 > 間接目的語 > 斜格名詞 > 所有者 > 比較対象

ベトナム語においては、関係節化が最も容易なのは、関係節においてNとなる名詞の文中の役割が主語、直接目的語の場合で、これについて間接目的語、斜格名詞、所有者の順序で関係節化されやすく、最も関係節化が難しいのが比較対象である。以下にNが文中でそれぞれの役割で現れる文の例と関係節の例を示す。Nが主語、直接目的語、間接目的語、斜格名詞（前置詞の補語）、所有者、比較の対象の順に並べる。

春日（2010）はベトナム語でこの仮説を以下のような例で検証した。

(84) Sinh viên mượn sách của thư viện

学生 借りる 本 の 図書館

（学生が図書館から本を借りた。）

主語 →

- (85) Sinh viên mượn sách của thư viện đã đến trả sách
学生 借りる 本 の 図書館 既然 到着する 返す 本
(図書館から本を借りた学生が既に返しに来た。)

直接目的語 →

- (86) Quyển sách (mà) sinh viên mượn của thư viện dày lắm.
類別詞 本 学生 借りる の 図書館 厚い とても
(学生が図書館から借りた本はとても厚い。)

- (87) Thầy giáo cho sinh viên một quyển sách ngôn ngữ học.
先生 与える 学生 1 類別詞 本 言語学
(先生は学生に1冊の言語学の本を与えた。)

間接目的語 →

- (88) Sinh viên mà thầy giáo cho một quyển sách ngôn ngữ học giỏi lắm.
学生 関係詞 先生 与える 1 類別詞 本 言語学 優秀な とても
(先生が1冊の言語学の本を与えた学生はとても優秀だ。)

- (89) Nam cắt giấy tờ vào ngăn kéo
人名 しまう 書類 に 引き出し
(ナムは書類を引き出しにしまった。)

斜格名詞 →

- (90) Ngăn kéo mà Nam cắt giấy tờ (vào) đã khóa rồi.
引き出し 関係詞 人名 しまう 書類 に 既然 鍵をかける 完了
(ナムが書類をしまった引き出しは鍵がかかっている。)

前置詞の補語 →

(91) Nam đã cưa sừng của con nai này.

人名 既然 鋸で切る 角 の 類別詞 鹿 この

(ナムはこの鹿の角を鋸で切った。)

所有者 →

(92) Con nai mà Nam đã cưa sừng to lắm.

類別詞 鹿 関係詞 人名 既然 鋸で切る 角 大きい とても

(ナムが鋸で角を切った鹿はとても大きい。)

(93) Nam đã giải được bài toán này nhanh hơn Hào

人名 既然 解く 可能 数学の問題 この 速い より 人名

(ナムはハオより速くこの数学の問題を解いた。)

比較の対象 →

(94) *Hào mà Nam đã giải được bài toán nhanh hơn

人名 関係詞 人名 既然 解く 可能 数学の問題 速い より

(ナムより遅くこの数学の問題を解いたハオ。)

このように、階層の下位に行けば行くほど、N と VP の結びつきが明白でなくなるため、mà が出現しやすくなる。

以上のように、VP 内に動作の主体が現れ、N と V が物理的に離れるため、VP と N が修飾関係にあることを理解する過程により大きな困難が生じ、関係詞の生起が促されるのである。

春日 (2008) は関係詞 mà が現れないのは[N] [[主語] [動詞]]の構造よりも、[N] [[動詞] [補語]]の構造の方であり、それは関係詞の mà がなくても、N と VP の関係が認識しやすいためだと考えられる、と述べている。しかし、なぜそうなのかは説明してない。本研究では[N] [[動詞] [補語]]の構造は第1章の NVP 構造に相当し、なぜ N と VP の関係が認識しやすいかという点については詳細な説明を加えた。

ここまでの結論としては、[N] [[主語] [動詞]]の構造、つまり VP の動作主が N ではなく、N と VP の V の間にあることが、mà の生起を促す要素といえる。

翻訳作品だけを見ると、このグループの全ては N が VP の目的語である。しかし、実際、インターネット上の他のデータも見れば、N が VP の目的語の場合以外に道具、場所、動作相手などの文法役割の場合も、数は目的語の場合より随分少ないものの、確かに存在している。以下は、N が VP の目的語 (95)、VP の場所 (96) 及び日本語の相手格に当たる VP 内動詞の動作相手 (97) の例である。

(95) Đây là cuốn sách (mà) Taro đã đọc. (N が VP の目的語)

これ 繋詞 類別詞 本 関係詞 太郎 過去 読む

(これは太郎が昨日読んだ本である。)

(96) Từ báo mà bà thường xuyên có mặt. (N が VP の場所)

新聞 関係詞 彼女 よく 顔を出す

(彼女がよく顔を出す新聞。)

(97) Người đàn ông mà nàng đang chung sống. (N が V を一緒に行う人)

人 男 関係詞 彼女 進行 一緒に 住む

(彼女と一緒に住んでいる男の人。)

N が VP の目的語の場合は関係詞が現れても現れなくてもいいが、他の文法関係の場合はどちらかと言えば関係詞が現れたほうが良いと判断される。Keenan and Comrie (1977) の示した格階層のように、対格から斜格へと関係節化する難易度が上がっていくとされている。すなわち、N が VP の目的語の場合の方がその他の文法関係より、NVP を形成しやすいわけだが、このことも、N が VP の目的語の場合の方がその他の文法関係より、なぜ関係詞が略されやすいかということを裏付けている。というのは、NVP を形成しづらい斜格役割では、N と VP の結びつきが弱く、関係詞がその関係を示すために現れることが求められ、逆に NVP が形成しやすい目的語の場合はその必要性がそれほどないからである。関係節化しやすいからなのか、N が VP の目的語の場合の数は実際断然多い。また意味用法に関しては、VP が特定の動作主によって行われるため、集合 N の中からある N を特定化する働きを持つ、いわゆる限定的用法を有する。VP 内の動詞は一時的動的動詞の場合が多い。

1.2 単位名詞による修飾で関係詞の出現度が高いタイプ

既に述べたように、単位名詞は文が表示する事態における対象を明確にする役割を果たし、普通名詞と関係詞 *mà* の間に介在する。単位名詞は先行する名詞の主たる属性を含む上位語の普通名詞である。次の例では固有名詞の *ông Hào*（ハオさん）に単位名詞を付けると普通名詞相当になる。*người*（人）はその上のクラスの単位名詞である。

- (98) Tôi mới gặp ông Hào, người mà+ tôi đã gửi mail nhiều lần.
私 直前 会うさん 人名 人 関係詞 私 既然 送る メール たくさん 回
(私はハオさん、私が何回もメールを送った人に初めて会った。)

người（人）以外に、*nơi*（ところ）、*năm*（年）、*cái, thứ*（物）などもよく使用される。日本語の「こと、ところ、の」の形式名詞に相当するが、その他、類別詞も単独で単位名詞として用いられるので、すべて含めると数がかかなり多い。

- (99) Năm 1957, năm mà+ Bảy vẫn tất bật với công việc mua bán
1957年、 年 関係詞 人名 まだ バタバタ 前置詞 仕事 商売
(1957年、バイさんがまだ商売でバタバタしていた年。)

- (100) Chị thương ngôi nhà, nơi mà+ bất cứ lúc nào đứng đó chị cũng
彼女 愛してる 家 ところ 関係詞 いつも 立つ そこ 彼女 も
có thể nhìn thấy sóng biển.
できる 見える 海波
(彼女はお家の、立つといつも海波が見えるところを愛している。)

このように、単位名詞はVPの場所など主語ではない文法関係のことが多い。固有名詞か普通名詞が先行し、単位名詞に置き換えた後、*mà* が出現する例がほとんどである。単位名詞には無生と有生があり、有生の場合は言うまでもないが、無生の単位名詞も時に、主語の役割を果たし、事象に何らかの働きかけをする人格的な用法を持っている。但し、この時は第1章で分析したように、関係詞が出現しない。

(101) Hà nội, **nơi** đã để lại trong tôi nhiều ấn tượng sâu sắc.

ハノイ、ところ 過去 残す 中 私 多く 印象 深い

(ハノイ、私に深い印象を与えたところである。)

固有名詞から単位名詞に置き換えるので、その固有名詞を特定する意味にはならないが、VP は N に記憶の中で忘れられない年、印象的な場所など、読み手の注目を喚起する情報を付加することになる。このような NVP はベトナム語の典型的でよくある連体修飾表現である。

2. 関係詞の出現に影響する要因

同じ目的語でも、関係詞が出現したり、しなかったり、関係詞の必須度が違う。その理由は NVP 自体の特徴、NVP と NVP が含まれている主節との関係、N に対する修飾要素の数、語用論的な要素など、様々な要因が関わっていることが分かった。関係詞が随意的なこの第 2 グループは特に分かりやすいが、実は第 1 グループの場合でも、これらの要因に強く支配されている。

2.1 主節内の NVP の位置

VP によって修飾された N は新たな名詞となり、主節の文の中の一成分になれる。この成分が主節の文頭、文中または文末のどの場所に位置するかということは関係詞の出現を左右する。文末の場合、VP と N (下線部分) が一つの構成素を形成しており、関係詞を介さなくても、N と VP との関係がはっきりしている。

(102) Ông ấy là bác sĩ đã chữa bệnh cho tôi lâu nay. (春日 2008: 191)

彼 繫詞 医者 既然 治す 病気 ために 私 長い間

(彼は私を長い間治療してきた医者だ。)

一方、修飾された N が文頭や文中に位置するのであれば、その後ろに主節の他の成分が来るので、VP と主節の境界が分からなくなり、主節の文の意味の理解を助けるために、関係詞があった方がない場合より、その理解が容易になる。

- (103) Ông bác sĩ mà- đã chữa bệnh cho tôi lâu nay đã chuyển
 お医者さん 既然 治す 病気 ために 私 長い間 既然 移る
 sang bệnh viện khác.
 渡る 病院 別の
 (これまで長い間私を治療してきたお医者さんはすでに別の病院に移った。)

下線部分は主節の文頭に位置し、後続する様々な成分によって文が展開されていくので、Nと VP が一つの構成素で修飾関係の長い名詞であるということを示すのに関係詞が必要になってくるのである。

VP が文中に位置する場合も同様に説明できる。次の例は、NVP を残して作ったものである。

- (104) Tôi qua tôi cùng với ông bác sĩ mà+ đã chữa bệnh cho tôi lâu nay
 タベ 私 一緒 お医者さん 既然 治す 病気 ために 私 長い間
 đi uống bia.
 行く 飲む ビール
 (タベ私はこれまで長い間私を治療してきたお医者さんと一緒にビールを飲みに行った。)

VP の前後に主節の文の成分が来るため、文頭の場合よりも、文中に位置する場合はより関係詞が必要となる。

このように、N が VP の主語で、その VP が主節の文末に位置するのであれば、関係詞は要らないが、文頭及び文中に位置する場合は関係詞がよく出現すると言える。よって、第 2 グループにおける関係詞の必要度については、以下のように整理される。

出現場所	必要度
文末	×
文頭	mà-
文中	mà+

(96) の NVP を文中に位置させると、(105) のように、関係詞が必要になる。

(105) Tôi đã mua tờ báo mà bà thường xuyên có mặt tại cửa hàng đó.
私 過去 買う 類別詞 新聞 彼女 よく 顔を出す で 店 その
(私は彼女がよく顔を出す新聞をその店で買った。)

2.2 二重修飾の場合

二重修飾には、N が二つのものと修飾要素が二つのものの二通りがある。この際、関係詞 mà が現れることが多く、NVP のみの修飾要素が一つしかない場合より、関係詞の必要度が高い。

2.2.1 同じ N に修飾要素が二つ以上ある場合

実際の使用状況では、本研究の対象である動詞の他に名詞、形容詞、指示語等、あるいはこれらの要素が同時にある N を修飾することが多く観察されている。同じ N に対して、修飾要素が二つ以上ある場合、ベトナム語では動詞句が大体他の修飾要素（名詞、形容詞）の後に来る。そして、このような場合の動詞 VP には関係詞が生起する可能性が高い。

(106) Bốn quan niệm dạy con sai lầm mà nhà nào cũng từng mắc phải.
4 観念 教育 子供 間違った 関係詞 家族 どの も したことある 犯す
(どの家族も犯したことがある 4 つの間違った子供の教育観念。)

Hoàng Dũng, Nguyễn Thị Ly Kha (2004) も連体修飾表現では、修飾要素が複数ある場合、大切な要素が先に来て、それほど大切ではない要素が後にくるという規則があるとしている。先に来る要素は主名詞の常習的な性質のものであり、後に来る要素は主名詞の一時的な性質のものである。形容詞や名詞はその常習的な性質を表すのに対して、VP フレーズは N の何らかの一時的な性質を表すので、最後に来るのである。

第 2 修飾要素が VP であり、第 1 修飾要素が形容詞の最上級の場合。

- (107) Đó là cách tốt nhất mà+ các nước còn mâu thuẫn về
 それ 繋詞 方法 良い 一番 関係詞 各 国 まだ 矛盾 について
 lãnh hải có thể giải quyết mâu thuẫn hiện tại.
 海域 可能 解決する 矛盾 現在
 (それは海域についてまだ矛盾がある各国が矛盾を解決する一番良い方法だ。)

また、第2修飾要素がVPであり、第1修飾要素が名詞による修飾の場合もよく出くわす。

- (108) Những biểu hiện biết nói của bé mà+ bố mẹ có thể bỏ qua.
 各 兆候 知る しゃべる の 幼児 親 恐らく 見逃す
 (親が恐らく見逃す幼児のしゃべり出す兆候。)

このようなタイプはNがVPの動詞に対して目的語の場合がほとんどである。NがVPの主語の場合、各修飾要素の順番は上の規則に従うが、関係詞はあまり出現しない。

- (109) Tôi viết thư cho thầy giáo tiếng Anh (?mà) đã dạy tôi ở trường tiểu học.
 私 書く 手紙 ~に 先生 英語 既然 教える 私 ~で 小学校
 (私は小学校で教わった英語の先生に手紙を書いた。)

2.2.2 修飾された第1のN1が引き続き第2のN2を修飾

以下のような例を見てみよう。

- (110) Cô ấy là con gái của thầy giáo mà đã dạy tôi ở trường tiểu học.
 彼女 繋詞 娘 ~の 先生 既然 教える 私 ~で 小学校
 (彼女は私が小学校で教わった先生の娘だ。)(再掲)

- (110) では、第1のVP(一重下線部分)に下接する第2の修飾要素(二重下線部分)が来

る。つまり、修飾された第1のN「先生」が引き続き第2の名詞「娘」を修飾するのである。
春日が扱っていた一重修飾の例と比較してみる。

(111) Tôi viết thư cho thầy giáo (?mà) đã dạy tôi ở trường tiểu học.

私 書く 手紙 ~に 先生 既然 教える 私 ~で 小学校

(私は小学校で教わった先生に手紙を書いた。)

(111) では、一重下線部分だけが修飾部分なので、関係詞 mà が出現するより、出現しない方が文全体が自然になる。

次に、文中に位置する例を見る。

(112) Trên đây là những điều mà tôi, một người đã bước vào ngưỡng 40 muốn chia sẻ.

以上 繫詞 各 こと 私 一人 過去 入る 40代 たい分かち合う

(以上は40代に入った私が分かち合いたい話である。)

NVP「40代に入った私」が主節の文中に位置しながら、第2名詞としての「こと」を引き続き修飾しているので、(112)では関係詞を略することができない。修飾を以下の(113)の第2名詞の「こと」だけに残すとしたら、関係詞の必要度は第1節で分析しているように随意的に変わる。

(113) Trên đây là những điều mà+ tôi muốn chia sẻ.

以上 繫詞 各 こと 私 たい 分かち合う

(以上は私が分かち合いたい話である。)

ここまでで言えることは、二重修飾文には構造的複雑性があり、主節に様々な成分が来て、NとVPとが修飾関係にある一体化した構成素であるということが理解しづらい。関係詞はその理解の助けとして、生起するのだと考えられる。

2.2.3 NVP における多義解釈

これは修飾要素がどの主名詞を修飾するかによって、文が 2 通りに読み取られる現象である。

(114) 彼女は色々手伝ってくれた指導教員の娘だ。

(114) では、日本語は解釈が 2 通りある。下線部分が娘と指導教員のどちらを修飾しているかがはっきり分らない。つまり「娘がいろいろお世話してくれた」のか、それとも「指導先生がお世話してくれた」のか、前者の場合は後者の解釈にならないように、句読点が打たれる。

(115) 彼女は色々手伝ってくれた、指導教員の娘だ。

ベトナム語も以下の (116) は日本語と同様、2 通りに解釈可能である。

(116) Cô ấy là con gái của thầy giáo hướng dẫn, người đã giúp đỡ tôi rất nhiều.

彼女 繋詞 娘 の 先生 指導 人 過去 手伝う 私 色々

(彼女は色々手伝ってくれた指導教員の娘である。)

(彼女は色々手伝ってくれた、指導教員の娘である。)

一般にベトナム語は修飾部が被修飾名詞のすぐ右にあり、(116) は VP が指導教員を修飾すると理解する方が優先的である。特に句読点を使用せず、VP と指導教員の間に関係詞を入れた場合、この解釈にしか読み取られない。関係詞は直前の名詞が被修飾名詞であることの印だからである。

(117) Cô ấy là con gái của thầy giáo hướng dẫn mà+ đã giúp tôi rất nhiều.

彼女 繋詞 娘 の 教員 指導 関係詞 過去 手伝う 私 色々

(彼女は色々手伝ってくれた指導教員の娘である。)

このように、(116)の多義解釈を回避するために、関係詞 mà を用いるのが一つの方法である。VP とその直前の N が修飾関係にあることを明示する機能が働くことによって、(117) の例では、VP から離れた娘「con gái」ではなく、そのすぐ左の指導教員「thầy giáo hướng dẫn」が被修飾名詞だという理解が成り立つ。したがって、関係詞が出現する場合は、N と VP が修飾関係にあるということが関係詞が出現しない場合より、読みとられやすい上に、多義性の発生も避けられる。

そして、娘を修飾するという意味解釈に導くためには、(118) か (119) のように言い表す。

- (118) Cô ấy là con gái của thầy giáo hướng dẫn và cũng là
彼女 繫詞 娘 の 教員 指導 そして も 繫詞
người đã giúp đỡ tôi rất nhiều.
人 過去 手伝う 私 色々
(彼女は指導教員の娘であり、色々手伝ってくれた人でもある。)

あるいは

- (119) Cô ấy là người đã giúp đỡ tôi rất nhiều và cũng là
彼女 繫詞 人 過去 手伝う 私 色々 そして も 繫詞
con gái của thầy giáo hướng dẫn.
娘 の 教員 指導
(彼女は色々手伝ってくれた人で、指導教員の娘でもある。)

2.3 VP に文修飾副詞の出現

ここで N が VP の動詞の主語に相当する例を少し振り返る。第 1 章で説明しているように、関係詞が現れない方が自然である。

(120) Đây là con đường (?mà) hay bị kẹt xe. (春日2008: 191)

これ 繫詞 類別詞 道 しばしば 被害 渋滞する

(これはよく渋滞する道路だ。)

しかし、(120) に、*giờ cao điểm* 「ラッシュアワー」という時点を表す語があると、関係詞の容認度は高くなる。

(121) Đây là con đường mà giờ cao điểm hay bị kẹt xe.

これ 繫詞 類別詞 道 ラッシュアワー しばしば 被害 渋滞する

(これはラッシュアワーによく渋滞する道路だ。)

つまり、N と VP が直接結ばれるのではなく、その間の VP の先頭に副詞が現れる。そのため、N と VP が修飾関係にあることを明らかにするには、関係詞の必要性が高くなる。文修飾副詞はその文の全体を修飾するものであり、文修飾副詞や副詞節が挙げられる。

2.3.1 文修飾副詞句

文修飾副詞の中には時点、時間・期間等からモダリティ的意味を表す副詞まで含まれる。

時点：「子供のころ」、「その時」、など

(122) Phở là món ăn **mà thời thơ ấu** đã để lại cho tôi nhiều ấn tượng sâu sắc.

フォー 繫詞 料理 幼年時代 過去 残す に 私 たくさん 印象 深い

(フォーは幼年時代に私にたくさんの深い印象を残した料理である。)

時間・期間：「長い間」、「何年も前から」等を意味する。この時間補語は、ベトナム語では、文末でも文頭でも出現可能である。春日の例（2008）をもとに作成した例を見てみよう。

(123) Ông ấy là bác sĩ **mà lâu nay** đã chữa bệnh cho tôi.

彼 繫詞 医者 長い間 既然 治す 病気 に 私

(彼は私を長い間治療してきた医者だ。)

領域：「経済面」、「正式に」、など

- (124) Đây là một dự án mà về mặt kinh tế sẽ đem lại nhiều
これ 繫詞 一 プロジェクト 経済面 未来 もたらす たくさん
lợi ích cho người nông dân.
利益 に 農民

(これは経済的にたくさんの利益を農民にもたらす一つのプロジェクトだ。)

評価副詞：「幸いなことに」、「残念なことに」など

- (125) Hà Nội vẫn đẹp bởi những biệt thự cũ mà bây giờ vẫn còn sót lại.
ハノイ まだ きれいで 各 別荘 古い 幸いなことに まだ 残っている
(ハノイは幸いなことにまだ残っている古い別荘でまだきれいだ。)

モダリティ：「確実に」、「おそらく」、「かもしれない」など

- (126) TPP là một hiệp định mà chắc chắn sẽ đem lại nhiều lợi ích cho
TPP 繫詞 一 協定 確実に 未来 もたらす たくさん 利益 に
các nước tham gia.
参加国

(TPP は参加国に確実にたくさんの利益をもたらす協定である。)

モダリティは文全体に対する話し手の判断や主観的な評価などを表す機能である。他の文修飾副詞と比べ、数が一番多い。そのリストとしては chắc chắn (確実に) の他に, có lẽ (おそらく、多分), dường như (どうも...ようだ), theo tôi nghĩ (私の意見では), quả nhiên (思った通り、やはり), thì ra (結局は), không hiểu sao (何でか分からないけど) 等々が挙げられる。

また、期間とモダリティ性を表す語が共起する例も有り得る。

- (127) Bài báo đặt ra câu hỏi **mà vài năm gần đây** **có lẽ** nhiều bạn trẻ muốn sang
記事 与える 質問 近年 多分 多く 若者 たい 行く
Nhật kiếm tiền đều cân nhắc.
日本 金儲け 皆 考える
(記事は日本に金儲けに行きたい多くの若者が近年多分皆考える質問を与える。)

2.3.2 文修飾副詞節

文修飾副詞表現は句に留まることなく、節にまで発展できる。文全体を修飾し、条件（ば、なら）、譲歩（ても）、目的（ように、ために）などがある。この場合は、特に関係詞 **mà** を欠くことができない。

- (128) Đây là một chủ đề **mà** **nếu** **không** **có** **kiến thức** **về** á đông thì
これ 繫詞 一 話題 関係詞 もし ない ある 知識 について アジア
bạn sẽ không thể hiểu được.
あなた 未来 ない 理解 できる
(もしアジアについての知識がなければ、これは（あなたが）理解できない一つの問題である。)
- (129) Anh ấy là người **mà dù** **ai** **có** **nói** **thế nào** cũng không bao giờ thay đổi ý kiến.
彼 繫詞 人 ても 誰 言う どのように も ない いつ 変える 意見
(彼は誰が何を言ってもいつも自分の意見を変えない。)
- (130) Chị ấy là người **mà để** **đạt** **được** **mục đích** luôn sẵn sàng làm tất cả.
彼女 繫詞 人 ため 達 できる 目的 いつも 覚悟 する 何でも
(彼女は目的が達成できるようにいつも何でもする覚悟がある人だ。)

以上の各例はすべて、N と VP の間の副詞句と副詞節を除いても文が十分に成立する。これらの副詞表現が表す情報によって、N の属性がより強調され、名詞修飾の働きが著しく増大

するように思われる。

2.1節では、関係詞がない場合に N と VP が形成する構成素を明確に判別しにくいのが問題点であったのに対して、この節の問題点は N と VP の間に副詞や節が挿入され、N と VP が物理的に離れてしまうことである。関係詞 mà は修飾関係を示す働きをするが、文修飾副詞の出現の方が NVP の主節内の位置や二重修飾よりも、関係詞の生起に強く影響し、この節での例文は関係詞 mà を略することができない。

2.4 談話参加者の N への共有情報や知識

談話上での語用論的な要素も関わっている。話し手と聞き手の共有情報、共有知識がどこまであるかが、関係詞の出現にも大きく影響する。次の会話を見てみよう。

会話

A1: cuốn sách cậu mượn Nam là sách về cái gì? (関係詞なし)

類別詞 本 君 借りる ナムさん 繫詞 本 について 何

(君がナムさんに借りた本は何についてですか。)

B1: cuốn sách nào cơ?

類別詞 本 どの 感嘆詞

(どの本?。)

A2: cuốn sách mà cậu mượn Nam (hôm qua) ấy

類別詞 本 関係詞 君 借りる ナムさん 昨日 感嘆詞

(君が(昨日)ナムさんに借りた本だよ。)

B2: à, đây là cuốn sách về ngôn ngữ học

ああ、それ 繫詞 類別詞 本 について 言語学

(ああ、それは言語学についての本だよ。)

「昨日 B さんがナムさんに本を借りた」という情報は A が初めに質問した時に、何らかの理由で (NVP 全体が聞き取れなかったなど)、一時的に B の頭にはなかったと推測できる。というのはもし、「ナムさんに本を借りた」という情報が頭にすぐに浮かぶのなら、B は「どの本」と聞き返さないだろう。A は情報を思い出させるために、関係詞を使ったり、本とい

うものに情報をより多く加えたり（昨日—hôm qua）して、本を特定した。つまり、AとBの間で、N に対しての知識が共有されない限り、関係詞を使う形で、N を特定して質問しなければ、どの N について話しているか、B には分からないのである。

2.4.1 VP フレーズの成分の数

VP は最小限、動詞そのものだけが入っているフレーズから、その動詞について可能な成分が最大限加えられ、完結した文に近いレベルまである。成分が多ければ多いほど N と VP の連結が弱くなり、関係詞がそれを補強するために現れなければならない。

(131) Cuốn sách mượn bạn Nam. (1 成分)

類別詞 本 借りる ナム

(ナムさんに借りた本。)

(132) Cuốn sách tôi mượn bạn Nam. (2 成分)

類別詞 本 私 借りる ナムさん

(私がナムさんに借りた本。)

(133) Cuốn sách tôi mượn bạn Nam cho em gái tôi (3 成分)

類別詞 本 私 借りる ナムさん ために 妹

(私が昨日、妹のためにナムさんに借りた本。)

(134) Cuốn sách tôi mượn bạn Nam ở trường cho em gái tôi (4 成分)

類別詞 本 私 借りる ナムさん で 学校 ために 妹

(私が昨日、学校で妹のためにナムさんに借りた本。)

(関係詞の出現可能性が高くなる。)

成分の数が増えると共に N と VP の間の関係詞の必要度も徐々に増えていく。各段階を比べると、さほどその必要度が大きく違わないが、第 1 段階の 1 成分と最後 4 成分との間では、

関係詞の必要性が明らかに異なっているのである。

(135) Cuốn sách mà+ tôi mượn bạn Nam ở trường cho em gái tôi.

類別詞 本 関係詞 私 借りる ナムさん で 学校 ために 妹

(私が昨日、学校で妹のためにナムさんに借りた本。)

N を限定したり、情報を付加したりする機能は、成分の数が多い方がその機能が増すが、普段の口語では、成分をわざわざ 4 成分まですべて言い表すことは殆どない。談話の中では、話し手と聞き手の間の共有情報や知識によって、この動詞の成分の数が決まるのではないと思われる。最初はおよそ 2 成分までが一般的な前提となり、その後はまだお互い N について通じないのであれば、臨時にどの成分を付加すればいいかが分かってくる。また、第 2.1 節で述べたような、主節の中の位置という要因とも合わさって、例えばそれぞれ極端な条件を取り出すと、4 成分の NVP が主節の文中に位置するのであれば、関係詞が出現しなければならないという結論になるだろう。

2.4.2 限定性

以上の会話の例で分かるように、修飾関係のマーカーとして mà を使用することによって、N に焦点を当てられる。N と VP が名詞修飾関係にあることを明示することができ、聞き手にとっても、NVP の意味がわかりやすくなる。

mà があると限定の意味が強く付加され、VP の特徴を持っている N だけが言及されることになる。一般に限定的連体には焦点が置かれやすく、情報付加連体（非限定）には焦点が置かれない。

2.4.3 焦点性

関係詞がある場合、N か VP に焦点が当てられる可能性が高い。主節を含め、主節の後続・先行する文は N か VP をめぐって展開されていくと考えられる。

(136) Tôi luôn suy nghĩ về những điều mà anh ấy nói.

私 いつも 考える について 各 話 関係詞 彼 言う。

Những điều đó có thật sự đúng hay không?

各 話 その 実に 正しい か

(私はいつも彼が言ったことについて考えている。そのことは本当だろうか。)

「彼が言ったこと」は後続する文にも「そのこと」と重複して表され、全体の話の焦点であると考えられる。これに対して、関係詞がない場合は N に VP で言い表している情報を付加するが、N を限定しない。したがって、NVP 全体が主節の中に埋め込まれ、N も VP も話の焦点にはならないことが多い。

(137) Tôi luôn suy nghĩ về những điều anh ấy nói.

私 いつも 考える について 各 話 彼 言う。

Anh ấy đã để lại trong tôi nhiều ấn tượng tốt đẹp.

彼 過去 残す 中 私 多く 好印象

(私はいつも彼が言ったことについて考えている。彼は私に好印象を残した。)

「話」も「彼が言った」も主節の次の文には繰り返されていない。話し手は「彼が言った話」に触れただけで、話の焦点は「彼」である。以下の例(138)では、NVP の内容に特別な注目が当たるわけではないことがよく分かるだろう。話の焦点である「彼」について、NVP1 と NVP2 が列挙されている。つまり、関係詞のない NVP1 と NVP2 は話の補助要素として現れているだけである。

(138) Tôi luôn suy nghĩ về những điều anh ấy nói, những việc anh ấy

私 いつも 考える について 各 話 彼 言う 各 こと 彼

làm, anh ấy đã để lại trong tôi nhiều ấn tượng tốt đẹp.

やる 彼 過去 残す 中 私 多く 好印象

(私はいつも彼が言ったことややったことについて考えている。彼は私に好印象を残し

た。)

2.4 節の会話の A1 と A2 の文は「昨日」を除いたら、日本語では全く同じ文である。ベトナム語でも A1 と A2 の間では、伝達情報は変わらないが、話し手の意図がやや異なる。

A1: cuốn sách câu mượn Nam là sách về cái gì? (関係詞なし)

類別詞 本 君 借りる ナムさん 繫詞 本 について 何

(君がナムさんに借りた本は何についてですか。)

A2: cuốn sách mà câu mượn Nam (hôm qua) ấy

類別詞 本 関係詞 君 借りる ナムさん 昨日 感嘆詞

(君が(昨日)ナムさんに借りた本だよ。)

それはまず、上で述べたように、A2 は N (本) に焦点が当てられ、N が話の焦点であることが分かるが、A1 にはこの特徴がない。

またベトナム語では前節から分かるように、N に焦点が当てられるが、N を限定する意味を持たない、関係詞が現れる単位名詞修飾表現がある。ここでもう一例を挙げる。

(139) Chiếc giường kê cạnh cửa sổ, **nơi** mà tôi có thể nhìn ra

ベッド 横にある 窓 ところ 関係詞 私 できる みる

vườn hoa và khoảng không gian bao la ấy mỗi hoàng hôn, **nơi** mà

庭 花 と 空間 広い その 毎 夕方、 ところ 関係詞

những tia nắng đầu tiên trong ngày chiếu thẳng chỗ tôi nằm.

各 光線 最初 中 日 差す まっすぐ ところ 私 よこになる

(花の庭と夕方になると広い空間が眺められる窓の横にあるベッド、一日の最初の光線がまっすぐ私の横になるところまで差してくるその窓のよこにあるベッド。)

N (ベッド) に 2 重の VP によって情報が加えられ、ベッドの属性が二つあり、ベッドという場所の特徴が強調されている。VP が複数で繰り返されることは、N に焦点を当てる他、N の

それぞれの属性を強調する話し手の意図を表し、N を限定する意味がほとんどない。

このように、修飾要素が二つ以上ある場合、少なくとも最後の要素には関係詞が必ず現れる。これには、N の性質・重要性を強調すると共に、文の締めくくりとして、バランスのとれた完結性を遂げる役割もある。

2.5 その他

口語では、短い語や文が好まれるため、できるだけ単語を省略する傾向がある。mà も前節で取り上げた会話と同様に、最初から略されている。意思疎通に支障をきたして初めて、関係詞 mà が使用され、意思の伝達を可能にするのである。書き言葉では、読み手の知識や情報などの前提が設定されないため、最初から関係詞を使用する方が無難である。

2.5.1 発音上の問題

話し言葉では、書き言葉と違って、イントネーションや発音のトーン、ポーズを置くなどによって、N と VP の修飾関係がある程度示すことができる。NVP を発音する際、N と VP の間に一旦ポーズを置くことや、N にストレスをかけるなどによって、後続する VP が N を修飾するということが目立つ。

mà を頻繁に使用する文もあまり良いとはされず、前後の語と何かの組み合わせで、言いづらさ、口が回らないなどの原因で、関係詞を省略し、または関係詞を使用することによって、文の響きがよくなるということもある。前節で述べたように、文のバランスがとれるということもこの特徴からである。

2.5.2 個人差

愛知県内に住んでいるベトナム語母語話者 50 人にアンケート調査をした。

年齢：20～30 代

職業：留学生、会社員

方法：ある段落の中で、同じ意味の文を選択（関係詞があるものとないもの）するという形式を使用。

結果：個人差が判明。関係詞のないものの方が好まれる傾向。

3. 短縮形

3.1 N が VP の目的語で、関係詞が出現しないタイプ（VP に虚詞が現れる）

N が VP の目的語の場合で、以下のような例がある。

(140) Chiếc xe **đang** sửa.

車 進行 直す

（直している車。）

動詞 sửa（直す）の動作主は「私」とすれば、元々の文は以下となる。

(141) Tôi **đang** sửa chiếc xe

私 進行 直す 車

（私は車を直している。）

「車」を N にすると、「私が直している車」になる。

(142) Chiếc xe (mà) tôi **đang** sửa

車 関係詞 私 進行 直す

（私が直している車。）

動作主も関係詞も落とし、虚詞と動詞だけの（140）のような NVP ができる。他の例も見てみよう。

(143) Cuốn sách **mới** xuất bản.

類別詞 本 近過去 出版

（出版したばかりの本。）

(144) Quả cà chua **vừa** hái.

類別詞 トマト 近過去 摘む

(今摘んだトマト。)

これらの例は「N+虚詞+動詞」の形を持っている。VP には元々存在している動作主が落とされ、動詞そのものしか残らない。そして虚詞も出現する。第 1 章で述べた通り、ここでの虚詞は話し手に関わるモダリティ性を持つため、虚詞との共起の際、VP は N の属性を表すことになり、関係詞を介さなくても文の成立動機が強くなる。

虚詞の他の種類として、状態副詞やモダリティ性の非独立動詞との共起の例も多くある。

(145) Những loại thực phẩm **cần** kiêng sau phẫu thuật.

各 類別詞 食品 要る 避ける 後 手術

(手術後、避けたほうがいい食品。)

(146) Những sản phẩm **không** bán trên thị trường.

各 商品 否定 売る で 市場

(市場で売っていない商品。)

また、副詞との共起も同様に可能である。

(147) Trà hái sáng

お茶 摘む 朝

(朝摘んだお茶。)

(148) Bữa cơm nấu vội

ご飯 作る 急ぐ

(急いで作ったご飯。)

VP 内の動作手を意図的に出現させると、関係詞の必要度が高くなる。動作主は濃い文字で示す。

- (142) Chiếc xe (mà) **tôi** đang sửa. (私が直している車)
- (149) Cuốn sách (mà) **nhà xuất bản** mới xuất bản (出版社が出版したばかりの本)
- (150) Quả cà chua (mà) **mẹ** vừa hái (母が今摘んだトマト)
- (151) Những loại thực phẩm (mà) **bạn** cần kiêng sau phẫu thuật (あなたが避けたほうがいい食後の食品。)
- (152) Những sản phẩm (mà) **nhà sản xuất** không bán trên thị trường. (製造者が市場で売っていない商品。)

勿論、虚詞が必須要素であり、それを抜くと chiếc xe sửa, cuốn sách xuất bản, cà chua hái...が非文になる。

ここまで、第1章で取り上げたように N が VP の主語ではないが、VP 内には主語が現れない分、N と VP 内の V が物理的に近くなり、その上、虚詞との共起もあるので、このタイプでは N と VP の結び付きが明らかになってくる。

N が VP の目的語で、関係詞が出現しないタイプはやはり、VP に虚詞が現れることと VP 内に特定の動作手が現れないことから、VP で表す内容が N の属性になる。

N が VP の目的語でない場合（斜格の場合）でも mà が挿入できるが、今回のデータ内では目的語が殆どであった。また N が VP の目的語でも、同じような意味で mà の用いられるものと、用いられないものを共に観察することができた。

- (153) Giấc mơ mà tôi hằng ấp ủ.

夢 関係詞 私 いつも 抱く

(私がいつも抱いている夢。)

- (154) Giấc mơ ấp ủ từ lâu nay.

夢 抱く 今までずっと

(今までずっと抱いている夢。)

さらに、(153)から関係詞なしにした(155)、(153)から関係詞と動作主を落とした(156)の3種類の例文を Google で検索してみたところ、以下のようなになる。

(153) Giấc mơ mà tôi hằng ấp ủ. 夢 関係詞 私 いつも 抱く (mà がある)	(155) Giấc mơ tôi hằng ấp ủ. 夢 私いつも 抱く (mà がない)	(156) Giấc mơ hằng ấp ủ. 夢 いつも 抱く (短縮型)
(12 件)	(10 件)	(385 件)

このように、一番語数が少ない例の頻出度が高く、第 2 章で主張する通り、ベトナム人であることから、省略された短いフレーズが好まれる傾向にあると考えられる。

ここの短縮形の意味用法は、モダリティ語を含んでいるため、VP 内に主語が現れなくても、NVP 全体はモダリティ属性が現れることになる。

3.2 単音節の組み合わせのフレーズ

今度は VP には虚詞の代わりに動作主と動詞が残っている。3 短音節 N、動作主、動詞のものがこのタイプを形成しやすい。これは第 2 節で述べた「関係詞の出現に影響する要素」の動詞の成分の数から来るからだと思われる。そして、短い傾向が好まれ、慣習的な言い方になっているからかもしれない。先行研究もこのタイプについて、関係詞の必要性が低いと主張しているが、その原因については全く言及されていない。

斜格に当たる語＋動詞＋目的語：

(157) Nơi chụp ảnh.

場所 取る 写真

(写真を撮る場所。)

(158) Ngày gửi thư.

日 送る 手紙

(手紙を出す日。)

斜格に当たる語＋主語＋動詞：

(159) Ngày em đi.

日 あなた いく
(あなたが行く日。)

- (160) Nơi anh đến.
場所 あなた 来る
(あなたが来る日。)

目的語＋主語＋動詞：

- (161) Người tôi yêu.
人 私 愛している
(私が愛している人。)

- (162) Áo em đan.
セーター あなた 編む
(あなたが編んだセーター。)

N と VP の動詞の間に動作主が入る。単位名詞が普通名詞として直接に主名詞となる NVP も可能である。この際、関係詞が現れるが、前の節より必要度が低くなる。なぜなら、単位名詞が普通名詞として機能しているため、上で分析している例と同様に扱われるのである。

- (163) Đó là những thứ mà- tôi ao ước bấy lâu nay.
それ 繫詞 各 物 関係詞 私 求める ずっと
(それは私がずっと求めている物だ。)

- (164) Thứ tôi ao ước
物 私 求める
(私が求める物。)

このように関係詞がいないものをまとめると、以下の4タイプになる。

斜格に当たる語＋動詞＋目的語

斜格に当たる語＋主語＋動詞

目的語＋主語＋動詞

目的語＋虚詞＋動詞

3 成分 NVP（主語、目的語や斜格に当たる語、動詞、モダリティ虚辞中の 3 要素）のタイプは関係詞が生起しなくても文が形成できることが分かった。

最後のタイプは虚辞が伴うので、話し手の何かの評価が入っているモダリティ属性が表される。このタイプを除いて、他は N が特定されるから、すべて排他的意味用法を持っている。Nơi, ngày, thứ, năm などの単位名詞が N に当たることが多い。

4. N と VP を結ぶ様々な語

ベトナム語は N と VP を結び付けるのに、関係詞 mà 以外は để（ために）、do（による）、với（と）、của（の）、như（のよう）khi、（際）などの語もよく現れる。日本語の複合助詞の機能と同質であるが、関係詞 mà のように万全な関係詞ではなく、それぞれ特殊な意味にしか使用されない。

(165) Các loại xe gắn máy **với** phương thức làm nguội động cơ bằng không khí
各種 オートバイ と（連結詞）方式 冷やす エンジン で 空気
（エンジンを空気で冷やす方式（のある、の） 各種のオートバイ。）

(166) Chia khóa để mở cả thế giới（奪格）
鍵 ため 開ける 全世界
（全世界を開ける鍵。）

(167) "Lời nói về bàn tay" do chính ông Honda viết
話 について 手 による こそ さん 本田 書く
（本田が書いた「手についての話」。）

(168) Niềm vui, sự hãnh diện **khi** kinh doanh sản phẩm đó
喜び、 誇り 時（連結詞） 経営 製品 その
（その製品を経営する（時の）喜びや誇り。）

以上の để（ために）、do（による）、với（と）、của（の）、như（のよう）khi、（際）は関係詞 mà に置き換えられない。

5. 例外

日常で「N+V」の2音節語の形もよく見かける。

- (169) bàn viết chậu giặt bát ăn
机 書く 洗面器 洗濯 茶碗 食べる
(書くための机) (洗濯の洗面器) (食べるための茶話、ご飯茶碗)

- (170) đài phát thanh máy gặt đập 等等
局 放送 器 収穫
(放送局) (収穫器)

N と VP を繋げるのに、mà 以外に để などの語も用いられ、ここでは N と VP の動詞との結びつきは để (のため) で表すことができる。

- (171) bàn để viết chậu để giặt
机 ため 書く 洗面器 ため 選択する
(書くための机) (選択するための洗面器)

4 節で触れた通り、N と VP を結びつけるには関係詞 mà 以外に他の語もあるが、ここではそれが để である。そして例 (169) ~ (171) はすべて mà には変えることができない。mà 以外の NVP の形が多様で、今後研究する余地が多く残されている。

なぜ、このような語が誕生し、現在でもよく使われるかということは次のように説明されている。ベトナム語も特に、話し言葉では、簡略化の傾向があるため、文意を伝達するのに障害がなければ、関係詞を略する場合が多い。このような語は人々の普段の生活の中でも用いられるようになり、次第に習慣的な言い方として通用されるようにもなった。特に上で上げた例のように2音節の語が多い。

6. 結び

第1章では、N が VP の主語の場合、関係詞が出現しないという結論になったが、N が VP の主語ではない他の文法役割を担う例を取り上げたこの第2章では、関係詞 mà が現れる。その中で、N が VP の目的語の場合は他の文法役割より、Keenan & Comrie (1977) が示す階層のように関係詞の必要度が低い。また単位名詞による NVP もこの章の典型的な形式であると言える。関係詞 mà は、N と VP の関係の意味的な結びつきを示すものであり、mà の生起条件には不明な点が多く残され、どのような場合に現れ、どのような場合に現れないかということに関する研究はなかった。その状況の中で、今回の考察結果から mà の生起条件に影響する要素は以下のようにまとめられる。

- N と VP の文法関係
- 主節内の NVP の位置
- 二重修飾
- VP への文修飾副詞の出現
- 談話上の各要素

関係詞の役割は修飾関係のマーカーであり、N を限定する意味が殆どである。

関係詞 mà の出現の判断は文構造や語用論的な要素など、様々な要因と関わっている。関係詞 mà が現れる際は、N と VP が修飾関係にあるマーカーとなり、N に焦点を当てたり、N の限定をしたりするような働きをする。

N が VP に対してガ格関係（主語）であるものは関係詞の出現が不必要であり、それ以外のヲ格（目的語）と斜格の関係であるものは関係詞の出現が任意的である。

関係詞の出現が任意的タイプは N の属性を表さず、N を限定するという意味になることが多い。そして、この限定の意味に読み取られる際は殆ど数量詞(những, các, một)が現れない。

第3章 第3グループ

第1章と第2章はNとVPの文法関係の観点から分析を行い、それぞれ主語、目的語やその他の補語、いわば寺村の言う「内の関係」に相当するNVPについて記述・分析した。本章ではそれ以外の、寺村のいう「外の関係」に当たる例について論ずる。はじめに寺村の論説を詳しく見る。

1. 寺村の「内の関係」と「外の関係」

寺村はNがVPの述語とどのような関係にあるかによって、名詞修飾表現を「内の関係」と「外の関係」とに分けている。「内の関係」というのは、元々是一个の文を構成していた要素が、修飾・被修飾という関係に転じたものである。Nは格助詞「が」「を」「に」「で」などでVPの用言と結び付く。つまり、(172)の例は以下のように解釈される。

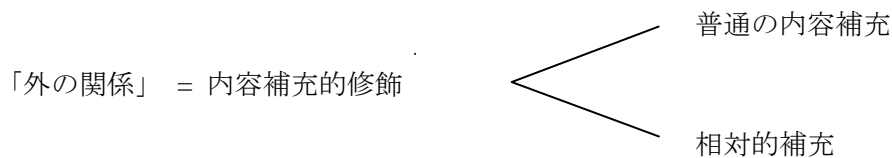
(172) 太郎が読んだ 本 → 太郎が本を読んだ

これに対し、「外の関係」はNにどのような格助詞をつけてもVPに納めることができないものである。この場合のVPとNは、一个の文の構成要素が修飾関係に転じたということができない。Nは、VPの外から来たものだと言わなければならない。

(173) 雪女たちが布を洗っていた姿

	が	{	雪女たちが.....洗っていた。
→ *(その) 姿	を		
	に		

「外の関係」は、それが内容そのものをいわば正面から補充して表す普通の内容補充と、Nと本来的に相対する概念の内容を表す、いわば「反面補充」とでも言うべき相対的補充の2つに区別される。



「外の関係」の2種類は、いずれも、VPがNの内容を補うような役割をもっている点で共通している。しかしながら、その補い方は一様ではない。

(174) 雪女たちが布を洗っていた姿

(175) 誰かが階段を降りて来る音

VPがNの内容を表しているのである。これらは普通の内容補充と呼ばれている。しかし、相対的補充についてはそうはいかない。以下の例を見てみよう。

(176) キング牧師が暗殺された結果

(177) 先頭集団が走っている前

(178) 美栄子を殺した罰

これらの例では、VPはNの内容を表しているのではない。Nは「相対的關係」を表し、空間的な前後左右（前↔後ろ）、時間的な前後の關係（前↔後）、そして因果關係（原因↔結果）のように、相対的な内容を持つ言葉を直ちに連想させる名詞である。

「内の関係」にも、2種類あるとされている。一つは、名詞修飾文を作るために、元の文のある成分の格助詞をなくして、残った名詞をNの位置に持っていくことが必要な場合である。したがって、修飾文では、NとVPの動詞述語が格関係にある。

(179) 太郎が本を読んだ → 太郎が読んだ本

もう一つは以下の例のような特別な場合である。

(180) 頭がよくなる本

名詞「本」は、それにいろいろな格助詞をつけても、それだけでは、VP「頭の（が）よくなる」とは結びつかない。自然な理解の仕方としては、以下の文に対応する。

(181) この本を読めば頭がよくなる

「本」を取り出して、Nに転出させると以下の(182)という名詞句ができるわけだが、ここから更に「読めば」を省いてしまって上の(180)のような文のようにしても意味が通じるということが問題である。寺村はこのような文を「短路」と呼んでいる。

(182) 読めば頭がよくなる本

「内の関係」と「外の関係」の区別ははっきりした線引きができず、境界にある以下のような文もある。

(183)について、寺村は「外の関係」の普通の「内容補充」だと主張しているが、仁田(1995)は「内の関係」に入れたほうがよいと反論をしている。それは、(184)のように言い換えることが可能だからである。

(183) 少数党が多数党に対抗する方法

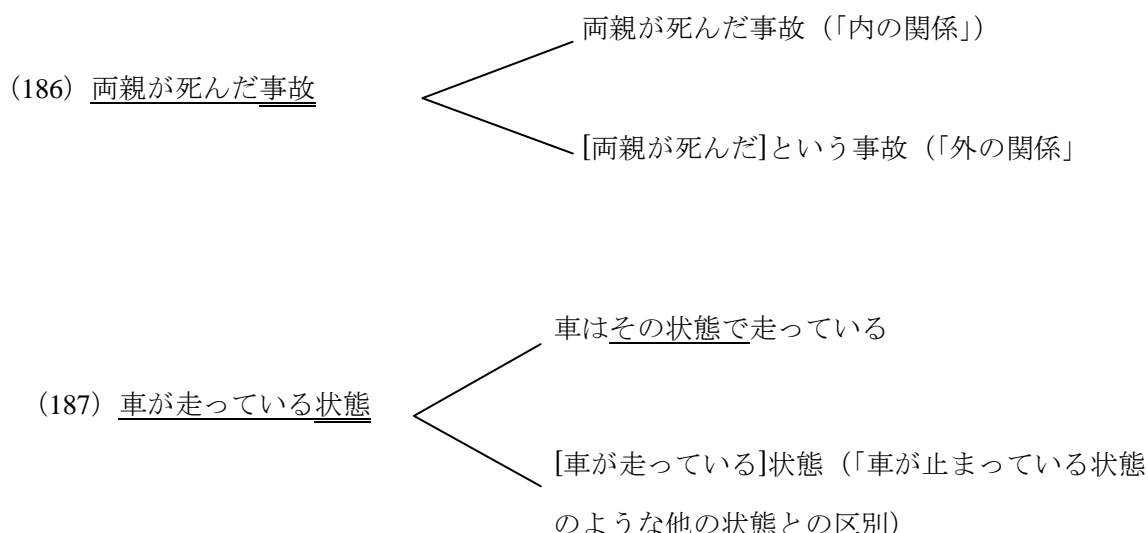
(184) 少数党が多数党にその方法に対抗する

これに関して、以下のような解釈も可能であり、筆者は「内の関係」と「外の関係」のどちらにも理解できるという立場をとる。

(185) 少数党が取る方法には、少数党が多数党に対抗する方法と少数党が多数党に協力する方法という二つの方法がある。

(183)は(184)「内の関係」と(185)の「外の関係」の「内容補充」の両方の解釈が可能である。

それは主として、主名詞に助詞「で」を付ければ修飾節と結び付けられるものに多いと寺村は述べている。この時はデ格が〈手段〉、〈状態〉、〈原因〉のどちらかの用法に限られる。(183)は「方法」のNが〈手段〉を表しているのである。以下の2例は〈原因〉や〈状態〉を表すデ格である。



このような文の多くはNとVPの関係が「内の関係」のデ格によって繋がれていると解釈されるのに加え、格関係にない「外の関係」の区分である「内容補充」とも理解できるのである。しかし、場面や文脈がはっきり把握できれば、どちらか一方の解釈が決まり、迷うことはないだろう。

このように、「内の関係」と「外の関係」の境界線上にあるケースも存在するが、寺村の分析は、ベトナム語の分類に適応しているので、非常に有益であり、本研究ではこの説を支持したいと考えている。

2. ベトナム語の「外の関係」

2.1 春日（2016）の分類

春日（2016）はベトナム語の「外の関係」を命題内容と随伴物の2種に分け、命題内容は寺村の「内容補充」と同様であるとしている。随伴物に関しては、原因随伴、過程随伴、結果

随伴の3種に分けている。過程随伴は寺村の「内容補充」に近く、原因随伴と結果随伴は「相対的補充」におおよそ相当する。この分類は、非常に妥当であると思われる。寺村の提唱した呼び方で以下のように整理される。

春日の「命題内容」＋「過程随伴物」＝寺村の「内容補充」

春日の「原因随伴物」＋「結果随伴物」＝寺村の「相対的補充」

ただし、寺村の「相対的補充」は春日（2016）の「原因随伴物」と「結果随伴物」の範囲よりも広く、日本語の「相対的補充」が包含するのは前節で論じたように、因果関係の他に、空間的な前後左右、時間的な前後の関係など、様々な関係が伴い得る。

原因随伴物：主名詞は修飾節の表す事象が起こる前に生じるものを表す。

(188) Nguyên nhân/ lí do anh ấy bỏ nhà ra đi.

原因／理由 彼 やめる 家 出ていく

(彼が家を出ていく原因。)

過程随伴物：主名詞は修飾節の表す事象の過程で生じるものを表す。

(189) Mùi/ khói cá nướng.

匂い／煙 魚 焼く

(魚を焼く匂い／煙。)

結果随伴：物主名詞は修飾節の表す事象が起こった後に生じるものを表す。

(190) Đây là dấu vết xe ô tô chạy qua.

これ 繫詞 跡 車 通る

(これは車が通った跡である。)

3 種に渡り、N と VP を結ぶ関係詞が出現しないことが明らかである。どのような理由で相対

的補充の文に mà が現れないのかについては、明確な説明ができてない。特に過程随伴物は関係詞が必要ではない。過程随伴物についてはまた次節で取り扱う。

2.2 相対的補充

2.2.1 N と VP が関係詞なしで直接繋がる場合

以上の原因随伴物と結果随伴物の場合はそのまま関係詞なしで、ベトナム語 NVP が成り立っているが、以下の例もそうである。

- (191) Trên đường đi ăn về.
道 食べに行く 帰る
(食べた帰り。)

- (192) Tiền thừa mua thuốc lá.
お釣り 買う 煙草
(煙草を買ったお釣り。)

N と VP の関係が明らかであり、N と VP は直接並べるだけでも、理解には何の差し支えもない。逆に関係詞などが入ると、不自然になる。

2.2.2 関係詞が随意的な場合

原因随伴と結果随伴は時には関係詞が現れても非文にはならない。関係詞が現れることによって、N と VP が修飾関係であることがより強調される。この点は関係詞のない文との違いと言える。

- (193) Đây là dấu vết mà xe ô tô chạy qua.
これ 繫詞 跡 関係詞 車 通る
(これは車が通った跡である。)

- (194) Nguyên nhân/ lí do mà anh ấy bỏ nhà ra đi.
原因／理由 関係詞 彼 やめる 家 出ていく

(彼が家を出ていく原因。)

この2例のNとVPの関係は関係詞が要らない上の2例(191)(192)よりは複雑と言え、(191)(192)は関係詞が絶対に出現しないが、この例では関係詞の許容度が高くなる。寺村の定義で挙げた例(176~178)では、NとVPの関係がより複雑になり、関係詞だけではなく、他の語も添えなければならない。相対的補充には、NとVPの関係の複雑度は低いレベルから高いレベルがある。

2.2.3 NとVPを繋げる語を添えなければならない場合

寺村の定義に上がった例(176~178)を再掲する。

(177) 先頭集団が走っている前

上の寺村の例をそのままベトナム語に対応させると以下のようになるが、これは非文である。

(195) *Phía trước (mà) đoàn dẫn đầu đang chạy.

前 関係詞 先頭集団 進行 走る

Nを置き換えた名詞の *nơi* (ところ) を挿入するなど、NとVPの間に語句を添え、初めてベトナム語の対応文ができる。

(196) Phía trước **nơi** (mà) đoàn dẫn đầu đang chạy.

前 ところ 関係詞 先頭集団 進行 走る

同じく、因果関係の場合でも、以下(197)のように、NとVPの間に略された部分を言い表さなければ、ベトナム語としては成立しないことがある。

(178) 美栄子を殺した罰

→ Hình phạt **do** **việc** giết chết Mieko.

罰 から(理由) こと 殺す 美栄子

日本語のこのタイプの相対的補充はかなり豊富で、様々な文が存在し、その形態を一概にはまとめられない。これらの場合では、万全な関係詞や語句もなく、それぞれの事例で、それぞれに添え加える語句は文意を考えながら選ばなければならない。

2.3 内容補充

内容補充タイプもほとんど、関係詞などの介在が要らない。なぜ関係詞が要らないかは今のところ説明できていない。「内容補充」は主名詞の具体的な内容が修飾節で表されるものである。この種には過程随伴物と一般的な内容補充のものがある。

2.3.1 過程随伴物

春日（2016）の分類している過程随伴物であるケースは前節で述べたように、Nが「匂い、姿、音」のような名詞の場合、ベトナム語でも関係詞なしでそのまま文が成り立つ。寺村の例も合わせて、以下の3例を再び見よう。

(197) 魚を焼く匂いを私は嗅いだ。

→ Tôi ngửi thấy mùi nướng cá.

私 嗅ぐ 見る 匂い 焼く 魚

(176) 誰かが階段を降りて来る音

(再掲)

→ Tiếng ai đó đi xuống cầu thang

音 誰かが 行く 下がる 階段

(174) 雪女たちが布を洗っていた姿

(再掲)

→ Hình ảnh các cô gái tuyết giặt vải

姿 各 雪女 洗う 布

2.3.2 一般的な内容補充

春日（2014）の例を見てみよう。

(198) Chuyện Từ Thức lấy Giáng Hương thì tôi đã học từ hồi lớp 6.

話 人名 結婚 人名 については 私 過去 習う から 小学校 1 年
(Từ Thức が Giáng Hương と結婚する話は小学校 1 年の時に習った。)

N「話」は内容説明を要求する名詞であり、その内容 (Từ Thức が Giáng Hương と結婚する) は VP で表されている。本稿執筆者が収集したデータから N の位置に現れる名詞を調査すると、その N には hoạt động (活動)、phương pháp (方法)、tập quán (習慣)、phương thức (方式)、thời kì (時期)、thời đại (時代)、cơ hội (機会)、bản chất (本質)、dũng khí (根性)、ý chí (意思)、chế độ (制度)、lợi ích (メリット)、suy nghĩ (考え)、quá trình (過程)、phong cách (風格)、xu hướng (傾向) などが見られた。

(199) Lợi thế hạn chế không gian phòng máy.

メリット 制限 空間 エンジン室
(エンジン室の空間を制限するメリット。)

(200) Phương pháp thu hồi thật nhanh tiền vốn.

方法 収集 素早く 資本
(資本を素早く収集する方法。)

(201) Ý chí chấp nhận mọi thách thức.

意思 直面する 全て 挑戦
(全ての挑戦に直面する意思。)

これらの N は数量詞との共起があまり見られず、具体的ではなく、不定の N を描写している。

コピュラ là の随意的な現れ

前節の以上の各例では、N と VP がほぼ直接結びつき、関係詞などは必要なかった。しかしながら、N の具体的内容を明示的に強く表現したい時、コピュラ là が現れ、直前の名詞の内

容を具体的な内容に導く役割を果たす。コピュラ *là* という繋詞が不定の N の具体的な内容や情報へ導き、N の内容を強調する。これに対して、特に強調しないで描写する場合は *là* がない方が一般的である。

- (202) *Lợi thế là hạn chế không gian phòng máy.*
メリット 繋詞 制限 空間 エンジン室
(エンジン室の空間を制限するというメリット。)

- (199) *Lợi thế hạn chế không gian phòng máy.*
メリット 制限 空間 エンジン室
(エンジン室の空間を制限するというメリット。)

また、*là* がない (203) は主節のトピックの位置に配置されやすいが、*là* がある (204) は主節の最後に位置する可能性が大きい。

- (203) *Lợi thế hạn chế không gian phòng máy là ưu điểm của phương pháp chế tạo này.*
メリット 制限 空間 エンジン室 繋詞 美点 の 方法 製造 この
(エンジン室の空間を制限するメリットはこの製造方法の美点だ。)

- (204) *Phương pháp chế tạo này có một lợi thế là hạn chế không gian phòng máy.*
方法 製造 この ある 一 メリット 繋詞 制限 空間 エンジン室
(この製造方法はエンジン室の空間を制限するというメリットがある。)

前にも述べたように、数量詞の *một* は連体文 NVP の機能をより明らかにし、VP で表される内容が N の性質・属性であることを強める。したがって、ここでは *một* と *là* がよく共起することが観察される。「メリット」の具体的な内容が VP の部分で強調されている。

- (205) *Một lợi thế là hạn chế không gian phòng máy.*
一 メリット 繋詞 制限 空間 エンジン室
(エンジン室の空間を制限するというメリット。)

là と một が両方とも VP の内容を強調する働きがあるから、ペアで出現するわけだが、là だけが (202) のように単独で現れることができて、một は単独で現れない。

(206) *Một lợi thế hạn chế không gian phòng máy.

一 メリット 制限 空間 エンジン室

またこの là によって、ベトナム語の NVP は日本語のような多義解釈が避けられる。それは例 (205) が「エンジン室の空間を制限する」がメリットの内容である内容補充意味への解釈と「エンジン室の空間を制限する」ことによって生じたメリットという相対的補充意味への解釈である。

寺村の論説のところで触れた、内の関係と外の関係の両方解釈が可能な例もここで同時に再掲する。コピュラ là を使用すれば、内容補充の意味にしか読み取られないことになる。相対的補充の意味に導くためには、ベトナム語は別の語を加える。

(205) Một lợi thế là hạn chế không gian phòng máy (内容補充の意味)

一 メリット 繫詞 制限 空間 エンジン室

(エンジン室の空間を制限するというメリット。)

(207) Lợi thế của việc hạn chế không gian phòng máy. (相対的補充の意味)

メリット の こと 制限 空間 エンジン室

(エンジン室の空間を制限することから生じたメリット。)

(208) Một sự cố là bố mẹ mất. >< (209) Tai nạn làm bố mẹ mất.

一 事故 繫詞 両親 死ぬ

事故 させる 両親 死ぬ

(両親が死んだという事故。)

(両親を死なせた事故。)

(210) Một trạng thái là xe đang chạy. >< (211) Trạng thái khi xe đang chạy.

一 状態 繫詞 車 進行 走る

状態 時 車 進行 走る

(車が走っているという状態。)

(車が走っている時の状態。)

このように、一般的な内容補充では、N と VP が修飾関係にあることを指し示す関係詞 mà の代わりに コピュラ là が生起し、VP が N の具体的な内容に相当する要素であることを標示す

る。

2.3.3 外の関係とアスペクトとの関係

2.3.3.1 テンス・アスペクトの脱落

ベトナム語は、アスペクトが簡単に理解できる場合は特にそのアスペクトを明示しなくてもいいので、アスペクト形式がよく省略される。以下の例では、明らかにその絵には少女が布を編んでいる行為が進行中のはずだが、どちらの表現でも可能である。

(212) Bức tranh cô gái dệt vải

絵 少女 織る 布

(213) Bức tranh cô gái **đang** dệt vải

絵 少女 進行中 織る 布

(少女が布を織っている絵。)

VP のアスペクトはここでは文脈で判断できるので、現れなくてもいいが、どうしても進行中の動作を強調する必要がある時は **đang** が残される。

2.3.3.2 アスペクトが現れる場合

これまでの外の関係の例、とりわけ内容補充のタイプ (212) と (213) は N が不定性を持ち、VP には主語が出現しない。主語が現れても、その主語が一般性を持っている、知名度のある人物である場合、N そのものの概念だけが言及され、具体的にいつ、どこ、どの N を指すわけではないので、無論テンスとアスペクトも現れない。しかし、次の例を見てみよう。

(214) Anh có biết chuyện (là) Nam **đã (sẽ)** cưới vợ không?

あなた ある 知る 話 繫詞 人名 過去 結婚する 妻 疑問辞

(あなたはナムが最近結婚したという話を知っていますか。)

N は概念を表す不定の N ではなく、具体的な対象を指す。ここでは具体的な人物のナムさんが触れられる時に、具体的な時間を表す語の **vừa** も必要になってきて現れることが多い。結婚日前後の時点での発話の場合、特に過去か将来かのその時点に触れないといけない時は

過去・未来のテンスを入れる必要性が発生してくる。動作の時点を明確にすることによって、N も具体化される。そして、N に VP が情報を付加することから N の排他限定の意味用法を生じさせることになる。

春日（2014）は、アスペクトは N と VP の関係や関連する内容の語用論的な話し手の意図によって定められると主張している。以下の文は春日の主張ではアスペクトが要るものだが、母語話者の筆者は要らないと判断し、VP のテンスとアスペクトは文脈と主節で決められると主張したい。

(215) *Tôi có cảm giác là đã nghe thấy âm thanh hoa sen đã nở.

私 ある 感覚 繫詞 過去 聞こえる 音 ハス 過去 咲く

(私はハスが咲く音が聞こえた感覚を持っている。)

(216) *Tôi muốn biết kết quả bác sĩ ấy đã kiểm tra lại bệnh của tôi.

私 たい 知る 結果 その医者 過去再 再検査 病 の 私

(私はその医者が私の病を再検査した結果を知りたい。)

(215) は主節のテンスが đã の過去であり、主節のテンスを基準にし、VP のテンスも過去となる。また、(216) は結果という名詞は明らかに事象の後に生まれるので、自然に再検査の行動が実行されてからでないと、結果がでないことから、VP のテンスは当たり前のように過去でなければならない。これらの N を言う時に VP 内のテンスが既に過去のこととなっているので、テンスを表す必要がなくなるのである。VP 内の đã (過去) は出てくるよりも、むしろ現れない方が自然である。しかし、以下の春日（2014）の例ではアスペクトの出現が適切である。

(217) Tôi không hiểu lí do anh ấy đã (sẽ) bỏ nhà ra đi.

私 否定 分かる 理由 彼 過去(未来) 辞める 家 出ていく

(私は彼が家を出ていった(出ていく)理由が分からない。)

春日（2014）の述べているように、事象の前に原因の N が生じている。言い換えれば、原因そのものがあってその後行動が行われる。主節にはテンス・アスペクトが現れないことから、VP 節のアスペクトも判断できない。したがって、VP のテンスは過去、または未来のど

ちらでも解釈できる。特別なコンテキストがなければ、通常は過去の方が先に解釈される。なぜなら、主節の動詞フレーズ *tôi không hiểu* は現在の否定形ではあるが、*hiếu* 自体が発された時点で既に過去となり、それを否定する過去のテンスも普段略されるからである。主節に伴って、VP のテンスも過去であると決まる。もちろん *sẽ* の未来の文も間違いではない。

このように、主節や文脈などによって、VP のテンス・アスペクトが明らかに判断できる場合はテンス・アスペクト表示が消えても非文にはならないが、これが未定の場合は出現する必要が出てくるのである。第 1 章では、テンス・アスペクトは眼前描写や経験を表すなど、N の属性を表すのに重要な機能として VP 内の動詞とよく共起すると述べた。それに対して、VP が N に情報を付加するこの内容補充の NVP では、そのような機能がそれほど働いていない。主節全体から NVP までのテンス・アスペクトはまだ研究する余地があるが、別の機会に譲る。

2.4 その他の外の関係

この節で取り上げる NVP は他のケースと比べて、数が一番少ない。N が VP 内の元々の一要素ではなく、VP に納めることができない外から来た N ということが、これまでの外の関係との共通点である。しかし、その形式は「N mà VP」で、関係詞 mà は必要不可欠である。そして、VP には N ではない主語が現れる。2 種に分けられ、一つ目は N と VP の主語は無関係だが、N が VP の抽象的な場所である。もう一つは N と VP の主語が所有関係を持つタイプである。

ここでは、mà が従来の関係詞ではなく、N を主題化する機能を持つ形式としてとらえるべきである。その理由は、VP に N と同一指示要素が再度現れることと mà の語彙的な意味にあると考えられる。まず最初に mà の語彙的な意味から見てみよう。

2.4.1 mà の語彙的な意味

Nguyễn Kim Thân (1997) は 20 世紀の初めころ、フランス語の “que” “dont” “ou”, “quoi”, “qui”... のような関係代名詞をベトナム語に翻訳する際、mà が名詞修飾の印として使われるようになり、この形態は現在の正式な文書において最も多く使われていると述べている。mà の語彙的な意味は今まで十分に研究されていない。Phan Thị Ngọc Bích (2002) では、mà は漢語の

「和」つまり「和合」という文字から生まれたと説明している。mà は語彙的に次のような用法を持っていると述べている。

	機能	例文
1	関係詞	(218) Người mà anh kể là nhà báo nổi tiếng 人 あなた 話す 繋詞 ジャーナリスト 有名 (あなたが話した人は有名なジャーナリストだ。)
2	逆接の意味 (しかし、だが)	(219) Nói mà không làm 言う ない やる (言ったがやらない。)
3	付加情報 (その上、また)	(220) Tốt mà rẻ 良い 安い (良いうえに安い。)
4	目的を表す (ように、ために)	(221) Nói cho mà biết 言う あげる わかる (わかるように言ってあげる。)
5	原因・理由を表す	(222) Nhờ có anh mà chúng tôi hoàn thành công việc おかげ ある あなた 私達 完成 仕事 (あなたのおかげで、私達は仕事が完成できた。)
6	仮定 (もしも)	(223) Bây giờ mà lụt thì mất mùa to 今 洪水 なる 不作 大きい (今は洪水だったら、すごく不作になる。)
7	話題転換	(224) Mà này, tôi hỏi nhé (ところで、ちょっと聞いていい?)

2.4.2 N の同一指示の要素

これまでの NVP は *đó* (その、あの N) , *anh ấy*, *chị ấy* (彼、彼女) , *nó* (その物、それ) という N を指す同一指示の要素が再出現しても何の影響もない。第 1 章の例は N が VP の主語であるため、VP には再度出現できないが、第 2 章の例で N と同一指示要素を復元すると、下のような文ができる。

- (225) Sinh viên mà thầy giáo cho (**anh ấy**) một quyển sách ngôn ngữ học giỏi lắm.
学生 関係詞 教員 与える 彼 1 類別詞 本 言語学 優秀なとても
(教員が1冊の言語学の本を与えた学生はとても優秀だ。)

彼は学生を指し、VP に現れても非文にはならないのである。同一指示の要素は殆どの場合省略され、VP には再現されないが、その要素が省略できない場合も時にはある。下の例ではなぜ同一指示語の語が必要なのかは、今のところ説明できていない。

- (226) Một nam giới rất tử tế mà tôi đã từng là sinh viên của anh ấy
一 男性 とても いい 関係詞 私 過去 した経験 繫詞 学生 の 彼
(私が前彼の教え子であった一人のいい男性。)
- (227) Ở Mỹ, có nhiều tiến sĩ mà lựa chọn đầu tiên của họ
で アメリカ ある 多く ドクター 関係詞 選択 初め の 彼ら
là làm giáo sư thay vì đi làm cho công ty
繫詞 やる 教授 代わり 仕事をする ため 企業
(アメリカでは、彼らの初めの選択が、企業のために働く代わりに教授をやることであるドクターが多い。)

2.4.3 N が VP の抽象的な場所

N は国、社会、制度などの人間が活動する抽象的な場所を表す語が多い。

- (228) Một quốc gia mà người dân có thu nhập cao.
一 国家 関係詞 人民 ある 高収入

(人民が高収入を得る国。)

(229) Thời đại mà ai cũng có ô tô

時代 関係詞 誰 も 持つ 車

(誰もが車を持っている時代。)

(230) Một nước mà ra ngõ gặp nhà văn.

一 国 関係詞 出る 横丁 会う 作家

(民家からちょっと横丁に出たら、作家に会うこの国。)

(→ 作家がとても多いという意味。)

(231) Một xã hội mà mọi người coi thường nhau.

一 社会 関係詞 人々 軽蔑 し合う

(人々が軽蔑し合う社会。)

(232) Các quốc gia mà vật chất luôn được đề cao.

各 国家 関係詞 物質 いつも される 強調

(物質主義的な国家。)

第2章において言及した、Nが場所の文法役割を果たすものと関連しているので、少し振り返りたい。

(96) Tờ báo mà bà thường xuyên có mặt. (NがVPの場所、再掲)

新聞 関係詞 彼女 よく 顔を出す

(彼女がよく顔を出す新聞。)

この対応連用文は、以下のようになる。

(233) Bà thường xuyên có mặt ở tờ báo đó.

彼女 よく 顔を出す で 新聞 その

(彼女はよく新聞に顔を出す。)

上の(228)も、いずれも同様に連用文が対応できそうだが、場所を表す ở quốc gia đó は文

末にあるとやや不自然で、機械的に連用文を対応させるという意図から離れると、この成分は通常文頭によく現れる。

(234) Người dân có thu nhập cao ở quốc gia đó.

人民 ある 収入 高 で 国家 その

(国民はその国で高収入がある。)

(235) Ở quốc gia đó, người dân có thu nhập cao.

で 国家 その 人民 ある 収入 高

(その国では国民は高収入がある。)

さらに、「国家」の後に mà が入ると、「国家」が主題化され、以下の (236) のように言い換えられる。この時、mà は「国家」と後ろの VP を結びつける語だが、なぜ主題化の意味が発生するのか。恐らく、この機能は mà の語彙的な意味である付加情報などの意味から派生して生まれたものだと考えられる。つまり、「この国家はどうだ」という問いに情報を付加する働きがある。

(236) Một quốc gia mà ở đó người dân có thu nhập cao.

一 国家 関係詞 そこで 人民 ある 高収入

(人民が高収入を得る国。)

さらに同一指示の要素をなくして、この節の連体文ができる。

(237) Một quốc gia mà người dân có thu nhập cao.

一 国家 関係詞 人民 ある 高収入

(人民が高収入を得る国。)

内の関係の文において、第 2 章で扱ったケースでは、N が元々一つの文を構成していた要素が、修飾・被修飾という関係に転じたものであるため、対応する連用文が連想されやすいが、第 1 章で扱ったケースでは N が VP の主語のため、連用文がそのまま連体文となる。こ

の節の外の関係の **NVP** も、元からの連用文が以上のように形が変わって、自動的に連体文の形ができているのである。

こうなると、場所を表す成分を取り立てて、「この国家について言えば」のように、国家を主題にする主題化への解釈の方が妥当であると思われる。寺村の説にもあったように、様々な用法を持つデ格が内の関係と外の関係の両方の解釈を発生させるため、この種の **NVP** が形成されているのかもしれない。

2.4.4 N と VP の主語が所有関係にある

N と VP の主語が所有関係にあるのは、次のような表現である。

(238) Những học sinh **mà** khả năng tiếng Anh chưa đạt yêu cầu.

各 生徒 関係詞 能力 英語 まだ 達する 水準

(英語能力がまだ水準に達していない生徒達。)

(239) Bộ Thương mại Công nghiệp Nhật bản **mà** Bộ trưởng là ông Miki Takeo.

通産省 日本 関係詞 大臣 繫詞 三木武夫

(大臣が三木武夫である日本通産省。)

(240) Những bức tranh **mà** sự huyền bí đã vượt qua vẻ đẹp mỹ thuật.

各 類別詞 絵 関係詞 幽玄さ 過去 超える 美しさ 美術

(幽玄さが美術的美しさを超えた絵。)

これらも N と同指示要素を VP にした連用文がもとになっていると思われる。

(241) Những học sinh mà khả năng tiếng Anh (của các em ấy) chưa đạt yêu cầu.

各 生徒 関係詞 能力 英語 の 彼ら まだ 達する 水準

(英語能力がまだ水準に達していない生徒達。)

(242) Bộ Thương mại Công nghiệp Nhật bản mà Bộ trưởng (của nó) là ông Miki Takeo.

通産省 日本 関係詞 大臣 の それ 繫詞 三木武夫

(大臣が三木武夫である日本通産省。)

(243) Những bức tranh mà sự huyền bí (của nó) đã vượt qua vẻ đẹp mỹ thuật.

各 類別詞 絵 関係詞 幽玄さ の それ 過去 超える 美しさ 美術
(幽玄さが美術的美しさを超えた絵。)

VPの主語がNの所有物やNの一部分のもので、N全般について言えば、Nの一部分の属性がVPで叙述される。日本語の「～は～が」構文と酷似しており、Nが主題化されていることが明らかである。

3. 意味用法

NとVPの主語が所有関係にある場合は、VPが話し手の強調したいNの属性を表す。NがVPの抽象的な場所の場合も、社会、国などはVPによりその特徴・属性が映し出され、特にその社会や国で取り上げなければならないような特徴などが暗示される。両タイプとも主題化されたNに属する部分の何かの属性が表され、第1章のN自体の属性やモダリティ属性よりも、その属性が一層強い。

第3章のここまでの内容を整理すると、ベトナム語の外の関係の名詞修飾は以下の3パターンである。

内容補充は関係詞があまり生起しないことが特徴である。Nが不定の名詞で、NVPには定の主語やアスペクトが現れない。しかしながら、抽象的で不定のNの場合、VPは定の主語やアスペクトによって、物事を具体的に特定する内容補充の例もある。VPの内容を強調したい際、関係詞の代わりに、繋詞 *là*、数量詞 *một* が現れる。

相対的補充はNとVPが直接結び付くものもあれば、その間に潜んでいた語を添えなければならないものもある。直接結び付くものは、NとVPが修飾関係にあることを強調したい場合、関係詞 *mà* も現れうる。

その他の外の関係においては、NがVPの抽象的な場所のものとVPの主語がNの所有物のものがあり、NとVPが修飾関係にあることを示すこれまでの関係詞 *mà* は、Nを主題化するという異なった機能を持っていることが分かった。

4. 結び

第1章から第3章までを通して、ベトナム語のNVPの統語形態は以下の表のようにまと

められる。

章	形式	特徴	関係 詞	意味用 法
第 1 章	NVP	N が VP の主語	なし	属性
第 2 章	N (mà) n VP	n が VP の主語で、N が元々 VP の一要素	随意的	排他限定
	N mà n VP	VP に文修飾副詞の出現	あり	属性
第 3 章	NVP	VP には主語がない	なし	情報付加
		VP には主語があり、N が VP の一要素ではない		
	N mà n VP	N と n は所有関係を持つ	あり	属性
		N が VP の抽象的な場所		

第 1 章で扱ったケースでは、N がそのまま VP の主語になり、N と VP の関係が明白で、関係詞が現れなくてもいいのに対して、第 2 章のケースでは、VP 内に N ではない主語が来て、関係詞を必要とする度合いが高くなる。第 3 章では、第 1 章、第 2 章と異なって、N が VP の一成分ではなく、VP の外から来る N が VP によって修飾されるもので、関係詞が要るものと要らないものがある。

第 1 章と第 3 章のケースのその他の外の関係は、N の属性を表すのに対して、第 2 章のケースは、N を他と区別するための排他限定の意味的機能を持っている。

以上の 3 章を全体としてみると、関係詞 mà の出現については、以下のようにまとめられる。

4.1 mà が出現する場合

第 1 章と、第 2 章と第 3 章の一部は、関係詞の出現が NVP や NVP 以外にも様々な要因に左右される。mà の出現を必要とする決定的な条件は 3 つであると考えられる。一つ目は、文中で、N と VP が物理的に離れているケースである。具体的には、N と VP の間に文修飾要素

が入っている場合や、N に対して VP が二つ以上あり、最後の VP が N から離れてしまう場合である。

- (128) Đây là một chủ đề mà nếu không có kiến thức về á đông thì
これ 繋詞 一 話題 関係詞 もし ない ある 知識 について アジア
bạn sẽ không thể hiểu được.
あなた 未来 ない 理解 できる
(もしアジアについての知識がなければ、(あなたが)理解できない一つの話題である。)

関係詞の直後に時間、期間、モダリティ、文修飾副詞や節が来る場合だが、N が VP の目的語である例が圧倒的に多い。目的語の場合だけではなく、どの格でも、時間、期間、モダリティの文副詞が N と VP 内の主語の間に出現すると、mà の出現に影響する。

二つ目は、修飾された N1 が引き続き N2 を修飾する場合である。

- (110) Cô ấy là con gái của thầy giáo mà đã dạy tôi ở trường tiểu học.
彼女 繋詞 娘 ~の 教員 既然 教える 私 ~で 小学校
(彼女は私が小学校で教わった教員の娘だ。)(再掲)

mà のこの時の役割は、N と VP が修飾関係にある一つの構成素であることを指し示すことである。

三つ目は、mà が N を主題化するという機能のタイプである。

- (228) Một quốc gia mà người dân có thu nhập cao.
一 国家 関係詞 人民 ある 高収入
(人民が高収入を得る国。)

この 3 種の関係詞の出現する条件は決定的なので、関係詞の出現に影響する他の要因が現れても、条件のどれかが備われば、関係詞が出現する結果となる。

また、この 3 種の VP には N ではない主語が来る。つまり、関係詞が出現する場合はその VP に主語が現れる可能性が非常に高いと断定できる。

4.2 mà の出現が随意的な場合

内の関係で、N が VP の主語以外の場合であるが、各条件は第 2 章で分析した通り、N が VP の目的語の場合は他の文法役割の場合より、mà の現れる頻度が一番低い。

(95) Đây là cuốn sách (mà) Taro đã đọc. (N が VP の目的語)

これ 繋詞 類別詞 本 関係詞 太郎 過去 読む

(これは太郎が昨日読んだ本である。) (再掲)

その他の場合は、関係詞が出現するか否かは様々な要因に支配される。具体的には、主節内の NVP の位置、二重修飾、談話参加者の N への共有情報、発音上の問題などである。

4.3 mà が出現しない場合

N と VP が直接結び付くものは、以下の 4 種類 (内の関係、短縮型、外の関係の一部、例外) に限られることが分かった。

関係詞があまり出現しない第 1 グループは寺村 (1977) の提唱した「内の関係」で、N が VP の主語である場合が圧倒的に多い。

(102) Ông ấy là bác sĩ (?mà) đã chữa bệnh cho tôi lâu nay.

彼 繋詞 医者 既然 治す 病気 ために 私 長い間

(彼は私を長い間治療してきた医者だ。)

その他に挙げられるのは、以下の寺村 (1977) の提唱した「外の関係の内容補充」タイプである。(173) の訳は以下になる

(244) Hình dáng các cô gái tuyết đang giặt vải.

姿 各 雪女 進行 洗う 布

(雪女たちが布を洗っていた姿。) (再掲)

以下の例は、本稿執筆者が定義している「短縮型」(VP の動詞の成分が少なく、虚詞と共に起するタイプとその3音節タイプ)である。

(143) Cuốn sách mới xuất bản.

類別詞 本 近過去 出版

(出版したばかりの本。)

最後は、慣習的なタイプである。

(169) bàn viết chậu giặt bát ăn

机 書く 洗面器 洗濯 茶碗 食べる

(書くための机。)

(洗濯の洗面器。)

(食べるためのご飯茶碗。)

以上のように、ベトナム語の NVP を N の VP に対する文法的な役割の観点から3グループにわけて分類した。この分類によって、NVP において重要な機能を果たす関係詞の出現状況や条件を確認することができた。

第4章 日本語との比較

これまでの先行研究では日本語と他の言語の名詞修飾について統語的な面での対象研究が行われてきたが、意味的な面についてはまだあまり研究されないようである。この章では、これまでの章で論じたベトナム語の三つのグループを、意味的、統語的に日本語と比較する。そして、実際の使用状況から、両言語の NVP 全体の意味的、統語的機能の共通点と独特な特徴を指摘する。

1. 意味での比較

1.1 益岡（1995）の非限定的 NVP の階層

日本語とベトナム語も含めて、どの言語においても、NVP の一番重要な役割は N を限定する意味であろう。しかし、NVP の非限定的な意味については、具体的にどのような機能を果たしているのかこれまであまり研究されていない。以下、ベトナム語と比較しながら、益岡のこの非限定的 NVP の階層を見てみよう。

益岡（1995）は、非限定的連体 VP を階層的にいくつかのタイプに分類している。まず、情報を付加するものと情報を付加しないものの 2 種に分け、情報を付加するものをさらに「主節で表している事態に対する情報付加」と「N に対する情報付加」に分けている。

主節で表している事態に対する情報付加

主節で表している事態に対する情報付加には「対比・逆接」、「継起」、「原因・理由」及び「付帯状況」という 4 つの意味がある。以下の例は、益岡(1995)からの引用である。

意味	ベトナム語との対応	情報を付加するもの 「主節で表している事態に対する情報付加」
「対比・逆接」	○	(245) <u>いつもは孫に甘い祖父が</u> 、その時ばかりは、厳しい声で、きっぱりと言った。
「継起」	×	(246) <u>控え室に戻った私は</u> 、9 分間、時間を過ぎたことを、係の人に詫びた。
「原因・理由」	×	(247) <u>最後のバスに乗り遅れた僕は</u> しようがなく橘寺を後にして一人でてくてく歩きだしました。
	○	(248) <u>バツグンの集中力と持続力と意思の強さを持つあなたは</u> 、目的や目標を徹底的に追及し
「付帯状況」	×	(249) <u>血の気が引いて行く思いで出場者表を見上げていた勇の肩を</u> 、金村が強く叩いた。

そのままの連体修飾形でベトナム語が対応できるものに○、対応できないものに×を付けた。同じ「原因・理由」を表す例でも、ベトナム語が対応できるものと対応できないものがある。対応できるものは、VP「バツグンの集中力と持続力と意思の強さを持つ」がNの「あなた」の性格・属性を表すからである。

N に対する情報付加

ベトナム語の連体文はこのタイプに一番近いと言える。全ての例が対応できる。

- (250) コカイン密輸事件で逮捕・送検された角川書店社長の角川春樹容疑者は、父親の源義氏ともども異色の俳人として名が通っている。

Nghi phạm Kadokawa Haruki, giám đốc hiệu sách Kadokawa, người đã bị bắt và gửi lên Viên kiểm sát vì tội buôn lậu Cocaine, là một nhà thơ Haiku cá tính nổi tiếng cùng với bố của ông, ông Genyoshi.

益岡（1995）は、このタイプの重要な働きは、N の文脈への導入を円滑にするためである

としている。VP を取り除いても、主節の文が成立するが、VP が表す予備的、背景的な情報がないと、N の人物の文脈への導入が唐突なものになってしまう。確かに、ベトナム語でも、もしその角川春樹という人物が談話の冒頭に出現するのなら、聞き手にどういう人物なのか簡単に説明や情報を付加する必要がある。連体修飾文はこの役割を果たすことになり、N の背景的情報を与えるのである。そのため、次の例でも、本田という名前が談話の最初に来る場合、そのような付加情報がないと、主節への導入が唐突になる。N と VP の間にコンマあるいはハイフンが用いられ、N が単位名詞に置き換えられる。

(251) Ông Honda – một nhân vật có cá tính hấp dẫn,

さん 本田 一 人物 ある 個性 魅力

đã xây dựng nên thương hiệu HONDA

過去 立ちあげる 前置詞 ブランド HONDA

(魅力的な個性がある人物である本田さんは HONDA ブランドを立ち上げた。)

một nhân vật có cá tính hấp dẫn VP 「魅力的な個性がある人物」は本田さんについての情報を付加し、後ろの主節「HONDA ブランドを立ち上げた。」とは直接的な意味関係がないように思われる。つまり、この VP を仮に取り除いても、主節は成立する。VP は N の注釈部分のような背景的情報を与えている。

(252) Ông Honda đã xây dựng nên thương hiệu HONDA

さん 本田 過去 立ちあげる 前置詞 ブランド HONDA

(本田さんは HONDA ブランドを立ち上げた。)

情報を付加しないもの

以下の例も、益岡(1995)からの引用である。

	ベトナム語との対応	情報を付加しないもの（「述定的装定」）
無題	×	(253) <u>修一は動揺する自分を感じながら言った。</u>
有題 (主題 – 解説)	○	(254) <u>いかに仮説を立てて論を進めることに味をしめたアインシュタイン</u> とはいえ、あくまでも科学者である。
	○	(255) <u>幾度か体験した事件や離婚など、そのたびに大きく成長してきた萩原</u> <u>原だけに厄をのみ込んでしまうのだろう。</u>

「修一は動揺する自分を感じながら言った」と言い換えることができないのに対して、「アインシュタインはいかに仮説を立てて論を進めることに味をしめたとはいえ」あるいは「萩原は幾度か体験した事件や離婚など、そのたびに大きく成長してきただけに」と言い換えられる。有題の述定的装定の表現は幅広く観察されると指摘されているが、上がった例の VP はどれも N の人の経験や性格を表すものであるため、ベトナム語で対応できる。しかし、無題の方については、ベトナム語の修飾文の場合、N の位置に一人称（自分、僕、私）はあまり来ない。二、三人称が N になるのが殆どで、一人称の出現の例は以下のような例に限られる。

(256) Xin hãy giúp tôi, một kẻ mang căn bệnh HIV.
 丁寧語 ください 助ける 私 一 やつ 持つ 病気 エイズ
 (私を助けてください。エイズを持つやつなのです。)

VP は望ましくない事態を表すことが多く、自分を侮辱的な意味で「やつ」と自称している。したがって、日本語のような例 (253) をベトナム語で言うことができない。

1.2 ベトナム語 NVP の VP は N の性質・属性を表さなければならない

ここまでのベトナム語が対応できない例とできる例を整理しよう。以下は、ベトナム語が対応しない例である。

- (253) 修一は動揺する自分を感じながら言った。
- (249) 血の気が引いて行く思いで出場者表を見上げていた勇の肩を、金村が強く叩いた。
- (246) 控え室に戻った私は、9 分間、時間を過ぎたことを、係の人に詫びた。
- (247) 最後のバスに乗り遅れた僕はしょうがなく橘寺を後にして一人でてくてく歩きだしました。

これらの例にはある共通の特徴がある。それは、VP 内の動詞は動作動詞で、一時的な動作を表示するということである。ベトナム語ではこれらの文をそのまま連体で表現することができず、連用で言い表さなければならない。

- (253) 修一は動揺する自分を感じながら言った。
- (257) Shuichi nói và cảm thấy bản thân mình dao động.
修一 いう と 感じる 自分 動揺する
- (249) 血の気が引いて行く思いで出場者表を見上げていた勇の肩を、金村が強く叩いた。
- (258) Kanamura đã đập mạnh vào vai Isao, lúc đó đang nhìn lên
金村 過去 叩く 強く 前置詞 肩 勇 その時 進行 見上げる
bảng danh sách mà mặt cắt không còn một giọt máu.
出場者表 で 血の気が引いて行く思い

それに対して、以下はベトナム語が対応する例である。

- (245) いつもは孫に甘い祖父が、その時ばかりは、厳しい声で、きっぱりと言った。
- (248) バツグンの集中力と持続力と意思の強さを持つあなたは、
- (250) コカイン密輸事件で逮捕・送検された角川書店社長の角川春樹容疑者は、父親の源義氏ともども異色の俳人として名が通っている。
- (254) いかに仮説を立てて論を進めることに味をしめたアインシュタインとはいえ、あくまでも科学者である。

(255) 幾度か体験した事件や離婚など、そのたびに大きく成長してきた萩原だけに厄をのみ込んでしまうのだろう。

「いつもは孫に甘い祖父」の VP「孫に甘い」というのは話し手の祖父についての評価にであることから、ベトナム語の NVP として対応できるのである。他の例についても同じように VP が N 自体の属性かモダリティ属性のどちらかを表している。

益岡（1995）が取り扱った例は N が全て固有名詞で、VP の主語である。第 1 章の結果を踏まえると、この時、VP が N の何らかの属性を表さなければならないという特徴がある。ベトナム語が対応できないのは、この特徴を持っていないからである。N は VP の主語ではあるが、VP 内の動詞が一時的な動作を表しているため、ベトナム語の NVP の形では対応不可能となる。

1.3 NVP の VP 内容やその連結性

益岡（1995）の各例から分かるように、ベトナム語 NVP の VP は N の性格や経験などの性質・属性を表さなければならないといった制約がある。その内容はモダリティ属性、N 自体の属性のどちらかである。そしてその属性は、話し手も聞き手も既に知っている旧情報の可能性が大きい。日本語の場合も同じく、VP が N の属性だけではなく、一時的な動作も表せるが、その内容は NVP の前にあったかもしれない。例えば

(259) どうせ遅れると思ったので、控え室に戻った。控え室に戻った私は、9 分間、時間を過ぎたことを、係の人に詫びた。

前文の旧情報や既に知られている属性が VP で繰り返されることによって、N が確認・強調される、または聞き手の注意・記憶を喚起させるなど、特に日本語では、主節への展開がスムーズになるのである。同時に言えることは、日本語の NVP は「原因・理由」、「継起」等の意味合いを持ち、主節への語用論的会話展開の機能があるのに対して、ベトナム語の NVP は、その前からの文脈やその後続く主節との関係がかなり薄い。VP はただ N に情報を付加するという注釈のような機能を果たし、あってもなくても主節との繋がりに影響しない。主節

から独立したベトナム語の VP だからこそ、談話のはじめに出現する場合、VP が全く新情報の可能性がありえる。

(260) Anh An, người sẽ kết hôn với cô Thúy, làm nghề xây dựng

さん An 人 未来 結婚 と さん Thúy やる 職業 大工

Đám cưới của họ sẽ được tổ chức vào chủ nhật tuần tới.

結婚式 の かれら 未来 される 挙げる に 日曜日 来週

(Thúy 先生と結婚する An さんは大工の仕事をしている。彼らの結婚式は来週の日曜日に挙げられる。)

1.4 両言語の意味用法の曖昧さ

両言語において、N がトピックの位置かコメントの位置にあるか、そして、N が定か不定かで NVP の用法・機能が違ってくる可能性がある。文脈がないと N の意味用法を区別することができない。以下、大島 (2010a) が限定・非限定について論じたものを見てみよう。

大島 (2010a) は、「限定的」について、NVP は「集合限定」(様々な N からある N を特定する)と「属性限定」(N の様々な属性から一つの属性を取り上げる)の2通りあると指摘している。

(261) 幼い女の子が誘拐される (という) 事件が多い。

(262) 昨日 幼い女の子が誘拐される (という) 事件が起きた。

(261) は「事件の集合」から VP の条件に合うものを切り出している (集合限定) が、(262) の VP は特定する「事件」のあらましを表しており、「切り出す」働きは持っていない。様々な属性から「幼い女の子が誘拐される」という事実関係の側面を取り出している「属性限定」と捉えられる。ある物事の属性記述とは、その事物に関する観察・考察の結果や判断を記述するものである。(261) は他の事件と区別するイメージが浮かぶから、「集合限定」は「限定的」に相当するが、(262) はそのイメージがなく、事件の内容が属性として VP で表されているので、「限定的」という呼び名は相応しくないと思われる。確かに様々な属性から「幼い女の子

が誘拐される」という属性を取り出しているが、他の事件と区別とするイメージがないため、「属性表示」と呼ぶことにする。

本研究では、「幼い女の子が誘拐される（という）事件」は、主節の文脈を考慮しなければ「集合限定」か「属性限定」かは判断できないと考えている。(261)はNが不定の事件を表しているが、(262)は主節の「昨日」、「起きた」によってNが特定され、ある一つの事件に限定されるのである。

序論でも述べたように、属性意味や情報付加の意味から限定の意味に変わるのと同様に、3つの意味用法は、文脈やNの定・不定、語彙的な意味などに左右される。そのため、N名詞の特徴やその分類も必要となる。

1.5 コマーシャル効果

語用論的な面では、例(180)「頭がよくなる本」では本という商品をPRするような素晴らしい情報をVPで与え、視聴者の注目を引く働きがある。そして、名詞修飾を構成する語または形態素の数が、日本語はベトナム語より少ないので、その分PRの効果が非常に高いと思われる。短時間、省スペースで情報を印象的に伝えることが追求される新聞の見出しや商品のコマーシャルなどで、日本語ではベトナム語よりもこの種の連体表現が多用される。

2. 統語上の比較

両言語の名詞修飾を統語の観点から比べると、基本的な語順が異なる上に、NVPを構成する要素も明らかに異なる。

ベトナム語には関係詞、数量詞、類別詞、日本語の「という」の機能に近い *là* があり、それぞれ日本語にはない機能を持っている。関係詞に関しては、これまで分析したように、NとVPが修飾関係にあることを強調するもので、日本語にはない。

複数を表す *các, những* の語がよくNの前に来ることが、NVPの標示となる。また、*một* (一) はNの属性を強調する。「限定」と「非限定的修飾」を区別する機能もあるが、日本語では特にそれが用いられないため、「限定的修飾」と「非限定的修飾」の違いが前節で述べたように、曖昧である。

最後のコピュラ *là* についてだが、外の関係の内容補充では、ベトナム語は日本語のように

多義解釈を発生させないが、VP の内容を具体的な内容に導きたい時の意味機能として、日本語の「という」に相当する。つまり、là は必ず現れるわけではなく、日本語の「という」の介在の必要性ほど複雑ではない。

統語の面について、以下に両言語のどちらかにしかない表現を取り上げる。

2.1 ベトナム語にない日本語の NVP

内と外の関係に関して、両言語で対応し合うものもあるが、一方の言語にあるが他方の言語にはないものも多々ある。とりわけ「相対的補充」と「短路」では、日本語でも N と VP の関係を特定できない様々な関係がありえるので、ベトナム語に対応しづらい。

2.1.1 相対的補充

先述のように、相対的補充でも、特に原因結果随伴はそのままベトナム語に対応したものがあるが、語を付け加えなければならないものや、単位名詞への置き換えなどによって修飾関係を様々な語で加えなければならないものもある。

2.1.2 短路

対訳文ができるが、ベトナム語では一般的 NVP ではない。

例 (1) では、本という N が VP の目的語であり、VP に太郎という動作の主体がある。対訳文は次のようになる。

(1) 太郎が読んだ本

→ Cuốn sách mà Taro đã đọc
本 関係詞 太郎 過去 読む

しかし、短路の場合はどうしても、そのままではベトナム語に訳すことができない。

(180) 頭がよくなる本

→ * Cuốn sách mà trở nên thông minh

本 関係詞 なる 頭がいい

文を成立させるためには、Nの主語への昇格という手段を応用し、関係詞 mà ではなく、Nと VP の関係を説明する言葉を加えなければならない。この例では、giúp (助ける) である。

(263) 頭がよくなる本

→ Cuốn sách giúp bạn trở nên thông minh

本 助ける あなた なる 頭がいい

あるいは、文修飾副詞と関係詞を使うことで、日本語の短路をベトナム語として自然な NVP に変換できる。

(263) Cuốn sách mà khi đọc xong bạn sẽ trở nên thông minh.

類別詞 本 関係詞 時 読み終わる あなた 未来 なる 頭がいい

(読み終わった時にあなたは頭がよくなる本。)

N が VP の主語の場合は最も NVP を形成しやすい。

しかし、この場合、giúp を添えるだけではなく、VP の主語も言い表さなければならない。「誰が頭がよくなるのか？」という問いの答えである「あなた」が出てくる。このことから、主語がよく省かれる日本語と違って、ベトナム語では主語が常に現れるということも確認できる。

2.1.3 一時的な動作動詞

N が人名詞、VP が動作動詞的という修飾は、日本語では、VP が旧情報で、NVP 構造を通して談話を展開させると、前節で論じたが、このような日本語の NVP は数が非常に多く、連続動作を順番に表現できる形としても多用される。もう一例を挙げよう。

(264) そこで東京へ行った川島は、もうひとりの個性派に会う。

ベトナム語訳は以下のような連用構文となる。

- (265) Vì thế anh Kawashima sau khi lên Tokyo sẽ gặp thêm một người cá tính
そこで さん 川島 後 時 上る 東京 未来 会う もう ひとり 個性派
(そこで川島は東京に行った後、もうひとりの個性派に会う。)

このように、日本語のこのタイプでは、N と VP の制約がそれほど厳しくなく、N と VP の結びつきが語用論的に自然に理解できるなら文が成立可能である。

2.2 日本語にないベトナム語の NVP

2.2.1 VP に現れる様々な語

ベトナム語は日本語のように動詞などが活用しないため、VP を N に付加する際、VP 内の動詞の形を考えなくてもよい。従って、あらゆる語が VP に現れ得る。

VP には「だろう」、「でしょう」などのモダリティから、仮定などの修飾節や修飾詞まで入ることが許される。

- (266) Đó là bữa tiệc mà có lẽ
それ 繫詞 パーティー 関係詞 だろう
suốt đời tôi không bao giờ được mời tới.
人生で 私 否定 いつ される 招待
(それは人生で招待されそうもないパーティーだ。)

2.2.2 複数回現れる N と VP

第2章でも触れたが、名詞が文に再度出現する場合は話し手も聞き手もその名詞がわかっているので、N に情報付加をする必要がなくなる。しかし、N を強調する目的で、その N または N から置き換えられた単位名詞が何度も繰り返されることがある。

また、VP が性質・属性を表す場合、一つだけではなく、二つ以上の性質・属性を列挙する

こともできる。様々な性質・属性がフォーカスされ、N が極度に強調されることになる。この場合は、各性質・属性は一律にプラスの意味、あるいはマイナスの意味でなければならない。以下は本田という人物に 6 つのプラス要素が挙げられ、非常に素晴らしい本田さんだという意味合いが込められている例である。

(267) Ông Honda, một nhân vật có cá tính đầy sức hấp dẫn, một mẫu người thuần tình, trong sáng vô tư quyết tâm theo đuổi duy nhất một giấc mơ, vượt qua những toan tính để giành thắng lợi cuối cùng, dẫu thất bại cũng không nản lòng và không lúc nào quên tính hài hước với nụ cười trên gương mặt.

本田という人物の個性が魅力的である。根アカで純情。夢を一途に追いかけて、打算抜きで勝負する。失敗してもくじけることなく、笑顔とユーモアを忘れない。(非常に素晴らしい人物だということを含意する)。

2.2.3 疑問詞を用いた修飾

数量詞は疑問詞と共に起して、すべての N を指す名詞修飾を形成することができる。このタイプは日本語にはない名詞修飾であるが、ベトナム語ではよく使用される。

または、ベトナム語の制限的用法は、疑問詞の N と共に起する場合もある。những (各) + 疑問詞 (何、誰、どこ...) という形もある。この時も mà の出現度が高い。

Những (各) + 疑問詞 (何、誰、どこ...) + (mà) + VP

(268) **Những gì mà mọi người đánh giá về em là rất đúng.**
 各 何 関係詞 皆さん 評価 について あなた 繋詞 とても 正しい
 (皆さんがあなたについて評価したすべてのことはとても正しい。)

(269) **Những ai mà đã từng đến Nhật đều thích hoa anh đào**
 各 誰 ことがある 来る 日本 皆一同で 好き 桜
 (日本に来たことがある全ての人は皆桜が好きだ。)

3. 両言語の全般の NVP の使用状況

3.1 データ

ベトナム語

ここでは、両言語で用いられる **NVP** の内訳に関して、本田宗一郎著（2001）『夢を力に』とそのベトナム語翻訳から統計を取って比べる。まず、ベトナム語から見てみよう。

合計 268 例文中、一番多かったのは **N** が **VP** に対して主語の場合（157 例）、次いで外の関係の内容補充（48 例）と **N** が **VP** の目的語の場合（25 例）で、それ以外に、短縮形（20 例）、外の関係の主題化タイプ（5 例）、他の文法役割（3 例）という数値が得られた。

主語	外の関係 の 内容補充	外の関係の 主題化タイプ	短縮形	目的語	他の 文法役割	その他
157	48	5	20	25	3	10

関係詞の現れない、**N** が **VP** の主語である **NVP** が過半数を占め、このタイプがベトナム語の一般的な **NVP** だと言える。**N** が **VP** の主語である場合、連体形式が連用形式と同じになるからである。

3.2 日本語との比較

もとの日本語版で用いられている **NVP** の数は639で、ベトナム語の **NVP** より2倍以上も多かった。そのうち、本論文では任意の142個の例文のみを分析した。**N** の **VP** に対する文法役割の内訳は、**N** が **VP** の主語（72例）、外の関係の内容補充（37例）、**N** が **VP** の目的語（20例）、その他（13例）という結果で、ベトナム語と同じような分布状態である。両言語は、この点については共通しているが、両言語の原文と対訳を比較すると、原本と翻訳が対応している例と対応しない例がある。外の関係の内容補充が一番対応しているタイプであるが、日本語の **NVP** が、ベトナム語翻訳では **NVP** で表現されないものも少なくない。これは、両言語の語彙の表現自体が違うことからだと考えられる。例えば、「自信」という言葉の表現であるが、

日本語のよくある NVP 形式は「～をする自信がある」に対して、ベトナム語は「自信を持って、～をする」という形が使用されている。また何度も触れたが、一時的動作の日本語の NVP も、ベトナム語では NVP が対応できず、連用形式で表される。さらに、ベトナム語の統計では一例もなかった相対的補充も、日本語原文には存在する。そして、日本語では「という」の介在した NVP も非常に多かった。陳風（2009）は日中連体修飾の対象研究で、NVP は N を概念化する機能を持ち、VP 内の動詞の動作性が弱くなり、N の持つ属性のように振る舞う、と述べている。NVP によって、主観性が差し控えられ、物事を客観的に描写しているように思われる。一方、中国語では動作性や主観性が重視されていると指摘している。この指摘が、ベトナム語にも当てはまるように思われる。

4. 第4章のまとめ

意味の面では、日本語では N が VP の主語で、人名詞の場合、VP が一時的な動作動詞と共に起こることができ、「対比、継起、原因」など、文の前後への会話展開の機能がある。それに対してベトナム語では、N が何らかの属性を表さなければならない。従って、この属性を表すベトナム語の NVP の VP は文の前後から独立し、新・旧情報両方とも有り得るが、日本語の場合、会話展開の機能を果たすため、旧情報の VP が現れることが多い。属性や情報付加等の意味用法を判断するのに、両言語とも文脈が必要である。NVP だけでは、時には何の意味用法であるかは簡単に決められないように、各意味用法には曖昧さがある。

統語の面では、ベトナム語にはあるが日本語にはない、そしてその逆の場合の幾つかのタイプを見た。日本語の NVP はベトナム語ほど拘束されず、様々な NVP が形成されやすいが、特に短路や相対補充タイプは、N と VP の結び付きが語用論的に話し手と聞き手の間で通じあえば NVP が成立する。

最後に、両言語の実際の使用状況を比較した。N が VP の主語、外の関係そして目的語の順に両言語の NVP の分布が集中しているが、同じ「本田」のことを語るのに、日本語の NVP の数は 2 倍以上多かった。その理由としてあげられるのは、語彙の表現方法が違ふことと、ベトナム語にあまりない日本語の相対的補充の数が多いこと、そして一時的動作動詞も日本語の NVP に多いことである。

結論

1. 研究成果

NVP に関するベトナム語の先行研究が少ない中で、本研究は、分析に役立つ日本語の理論を援用し、統語・意味の両方を視野に入れてベトナム語の NVP を考察した。収集した用例を記述・分類し、ベトナム語名詞修飾の傾向を観察することが出来た。また、日本語の名詞修飾との比較によって、両言語の構造や意味上での類似点と相違点も明らかになった。以下に、本研究の成果をまとめる。

第 1 章では、N が VP の主語である場合の特徴について論じた。N が VP の主語であるため、連体形式が連用形式とほぼ同一となり、VP と N を結ぶ関係詞なしで文が成立する。また、VP 内の動詞はテンス・アスペクトや非独立動詞、頻度・程度副詞などによく共起し、N の何らかの属性を表すことが分かった。

第 2 章では、N が VP の主語ではない他の文法役割を担う例を取り上げた。関係詞の出現が任意であるが、mà の生起条件に影響する要素は、主節内の NVP の位置、二重修飾、VP への文修飾副詞の出現、談話上の各要素など様々なものがある。関係詞 mà が現れる際は、N に焦点を当てる、または N を排他限定するという意味用法が生まれる。また、単位名詞に置き換える NVP がこの章の典型的な形式である。本研究が提唱した「短縮形」では、関係詞があまり出現しないということも明らかになった。

第 3 章では、ベトナム語の外の関係の NVP を取り上げたが、内容補充については、関係詞があまり生起しないことが特徴である。N が不定の名詞で、NVP には定の主語やアスペクトが現れない場合が多いが、特定の主語やアスペクトによって、物事を具体的に限定する内容補充の例もある。VP の内容を強調したい場合、関係詞の代わりに、繫詞 là、数量詞 một が共起する。相対的補充については、N と VP が直接結び付くものもあれば、その間に語を添えなければならないものもある。残りの外の関係タイプには、N が VP の抽象的な場所のものと VP の主語が N の所有物のものがあり、N と VP が修飾関係にあることを示すこれまでの関係詞 mà が、N を主題化するという異なった機能を持っていることが分かった。内容補充と相対的補充は N に情報を付加する意味用法を有するが、残りの外の関係タイプは N の属性を表す。

第 4 章では、これまでの章で論じたベトナム語の三つのグループを、意味的、統語的に日本語と比較した。そして、実際の使用状況から、両言語の NVP 全体の意味的、統語的機能の

共通点と相違点を指摘した。統語上の面では、日本語の **NVP** はベトナム語ほどは拘束されず、様々な **NVP** が形成されやすい。特に「短路」や「相対補充タイプ」は、**N** と **VP** の結び付きが、語用論的に話し手と聞き手の間で通じあえば **NVP** が成立する。日本語では **VP** が一時的な動作動詞と共起することができ、「対比、継起、原因」など、文の前後への会話展開の機能があるが、ベトナム語ではしばしば **N** は何らかの属性を表さなければならないという制約が働く。ただし、属性や情報付加等の意味用法を判断するのに、両言語には文脈が必要である。**NVP** だけでは、時には何の意味用法であるかは簡単に決められないような各意味用法の間には曖昧さが各意味用法の間にはある。

2. 課題と今後の展望

ベトナム語の **NVP** の関係詞は非常に複雑で、その生起条件は、まだ完全には明らかになっていない。第 3 章で扱った内容補充タイプはほとんど、関係詞の介在が要らない。また相対的補充においても、**N** と **VP** が修飾関係にあることを強調したい時、関係詞 *mà* が現れうると主張したが、すべてのケースに適用できる訳ではない。これらの問題の全面的な解明が、今後の課題である。

本研究では、これまであまり研究されていなかったベトナム語の名詞修飾表現の構造や意味用法を体系的にまとめることができた。しかし、さらにより深く掘り下げる余地がある。語学教育のためのみならず、翻訳などの言語応用分野においても活用できるように、本論文を研究の土台として、今後さらなる広範囲の研究を行う。

参考文献

- 岩淵匡 (2000) 『日本語文法』 白帝社
- 大島資生 (2010a) 『日本語連体 VP 構造の研究』 ひつじ書房
- 大島資生 (2010b) 「接続詞と近い意味合いを持つ連体 VP」『ひつじ書房 20 周年記念シンポジウム 連体・連用を考える』 ひつじ書房
- 大関浩美 (2008) 『第一・第二言語における日本語名詞 VP の習得過程』 くろしお出版
- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論—名詞句の構造—』 大修館
- 奥津敬一郎 (2004) 「連体修飾とは何か」『日本語学』 23 巻 3 号 pp.6-16 明治書院
- 奥津敬一郎 (2007) 『連体即連用?—日本語の基本構造と諸相—』 ひつじ書房
- 春日淳 (2008) 「ベトナム語の名詞句における関係詞 **mà** の生起」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 39 号 pp.183-202
- 春日淳 (2009) 「ベトナム語の関係節についての覚書」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 40 号 pp.189-225
- 春日淳 (2010) 「ベトナム語における関係節化について」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 41 号 pp.175-188
- 春日淳 (2011) 「ベトナム語における所有標識構文について」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 42 号 pp.227-243
- 春日淳 (2012) 「ベトナム語の名詞修飾について」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 43 号 pp.223-240
- 春日淳 (2014) 「ベトナム語の「外の関係」を表す名詞 VP」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 45 号 pp.175-187
- 春日淳 (2016) 「ベトナム語関係節構造における結果を表す N について」『慶應義塾大学言語文化研究紀要』 第 47 号 pp.155-167
- 加藤恵梨 (2002) 「転移修飾の分析」名古屋大学修士学位論文
- 加藤重広 (2003) 『日本語修飾構造の語用論的研究』 ひつじ書房
- 川口健一 (1991) 『エクスプレスベトナム語』 白水社
- 金水敏 (1986) 「連体修飾成分の機能」『松村明教授古稀記念国語研究論集』 明治書院
- 国立国語研究所 (1991) 『現代語の助詞・助動詞：用法と実例』 秀英出版

- 国立国語研究所（1997）『日本語における表層格と深層格の対応関係』三省堂
- 高橋太郎（1996）『日本語文法の諸問題』ひつじ書房
- 田窪行則（1994）『日本語の名詞修飾表現』くろしお出版
- 陳風（2009）『連体修飾の日中対照研究』—限定的修飾を中心に—牧歌舎東京本部
- 寺村秀夫（1975～1978）「連体修飾のシンタクスト意味—その 1～4」『日本語・日本文化』大阪外国語大学留学別科
- 寺村秀夫・他（1987）「連体修飾」『ケーススタディ 日本文法』桜楓社
- 寺村秀夫（1993）『寺村秀夫論文集 —日本語文法編—』くろしお出版
- 仁田義雄（1993）『日本語の格をめぐって』くろしお出版
- 丹羽哲也（2011）「連体修飾「外の関係」から見た名詞の—分類」『日本語文法学会第 12 回大会発表予稿集』日本語文法学会
- 野田尚史他（2002）「複文各論」『日本語の文法 4：複文と談話』岩波書店
- 橋本修・渡辺昭太（2010）「連体修飾・連用修飾の日中対照」『ひつじ書房 20 周年記念シンポジウム 連体・連用を考える』ハンドアウト
- 前田直子（2009）『日本語の複文—条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版
- 益岡隆志（1987）『命題の文法—日本語文法序説』くろしお出版
- 益岡隆志（1994）「名詞 VP の接続形式 —内容節を中心に—」『日本語の名詞修飾表現』田窪行則編、くろしお出版
- 益岡隆志（1995）「連体節の表現と N の主題性」『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 益岡隆志（2000a）『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 益岡隆志（2000b）「連体修飾における縮約節」『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 益岡隆志（2009）「連体修飾構造の構文と意味」『言語』38（1）：18—25 大修館
- 益岡・大島、高橋（他）（2014）『日本語複文構文の研究』ひつじ書房
- 増田真理子（2001）「談話展開型連体節」『日本語教育』109 日本語教育学会
- 松本善子（1993）「日本語名詞句構造の語用論的考察」『日本語学』12：101—4 明治書院
- 松本善子（1994）「意味から見た連体修飾のいろいろ」『月刊言語』23（9）124—127
- 三宅知宏（1995）「日本語の複合名詞句の構造—制限的／非制限的連体修飾をめぐって」『現代日本語研究（大阪大学現代日本語講座）』

- 森山新 (2002a) 『認知的観点から見た格助詞デの意味構造』 日本語教育 Vol.15
- 森山新 (2002b) 「認知的観点から見た格助詞デの意味構造」『日本語教育』115、日本語教育学会
- 森山卓郎 (2000) 『ここから始まる日本語の文法』 ひつじ書房
- 山梨正明 (1993) 「格の複合スキーマモデル」 仁田義雄編『日本語の格をめぐって』 くろしお出版
- 山梨正明 (1994) 「日常言語の認知格モデル 6 意味のモード」『言語』第 23 卷第 6 号
- 山梨正明 (編) 堀江薫・パルデシ・プラシヤント (著) (2008) 『講座 認知言語学のフロンティア 5 言語のタイポロジー』 研究社
- 陳風著 (2009) 『連体修飾の日中対照研究 限定的修飾を中心に』
- Edword L.Keenan and Bernard Comrie (1977) *Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar*, *Linguistic Inquiry*, 8.1:63-99.
- Hole.D.& E, Lobel.(Eds.) (2013).*Linguistics of Vietnamese an international survey*. Boston: De Gruyter Mouton.
- Cao Xuân Hạo (1994) *Về cấu trúc danh ngữ tiếng Việt, những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt hiện đại* Nhà xuất bản Khoa học xã hội
- Cao Xuân Hạo (2003) *Tiếng Việt, mấy vấn đề ngữ âm, ngữ pháp ngữ nghĩa* Nhà xuất bản Giáo dục
- Diệp Quang Ban, Hoàng Văn Thung (1991) *Ngữ pháp tiếng Việt, tập 1* Nhà xuất bản giáo dục VN
- Diệp Quang Ban(1991) *Ngữ pháp tiếng việt tập 2* Nhà xuất bản giáo dục VN
- Đình Văn Đức(2010) *Các bài giảng về từ pháp học tiếng Việt* Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà nội
- Hoàng Dũng, Nguyễn Thị Ly Kha (2004) *Về các thành tố phụ sau trung tâm trong định ngữ tiếng Việt* Tạp chí Ngôn ngữ 4-2004
- Nguyễn Kim Thản (1997) *Ngữ pháp tiếng Việt*, Nhà xuất bản Giáo dục
- Nguyễn Tài Cẩn (2011) *Tuyển tập công trình về Hán nôm* Nhà xuất bản Giáo dục Việt Nam
- Nguyễn Thiện Giáp (2010) *Từ vựng học tiếng Việt* Nhà xuất bản Giáo dục Việt Nam
- Nguyễn Văn Chính (2010) *Giáo trình từ pháp học tiếng Việt* Nhà xuất bản Đại học Quốc gia Hà nội

Nguyễn Văn Hiệp (2012) *Cở sở ngữ nghĩa Phân tích cú pháp* Nhà xuất bản Giáo dục Việt nam

Phan Thị Ngọc Bích (2002) *Câu chính phụ Định ngữ trong tiếng Anh với những hiện tượng tương ứng trong tiếng Việt* Luận văn Thạc sĩ Khoa học ngôn ngữ, Khoa Ngôn ngữ học, Trường Đại học Khoa học xã hội và Nhân văn.

Trung tâm khoa học xã hội và nhân văn Quốc gia (2002) *Ngữ pháp tiếng Việt* Nhà xuất bản Khoa học xã hội.

V.S.Panfilov (1993) *Cơ cấu ngữ pháp tiếng Việt* Nhà xuất bản Giáo dục

謝辞

博士後期課程入学から 8 年弱という長い期間を経て、その間様々な困難があったが、多くの方々のご支援をいただき、本論文を書き上げることができた。ここに、深い感謝の意を表する。特に、指導教官の町田健教授、佐久間淳一教授には、終始暖かい激励とご指導、ご鞭撻を賜った。また、久保田一充さん、言語学研究室の岩月真也さん、久保田樹さんには、論文の内容に関わる有益な助言と、細部にわたる誤植や構成に関するご指摘をいただいた。最後に、支えてくれた家族に、この場を借りて心からの感謝を伝えたい。